

平方北小学校の再編に係る説明会 報告書

令和8年9月

上尾市教育委員会

目次

1. 説明会の概要.....	2
1.1 説明会実施の背景・経緯	2
1.2 説明会の参加者.....	2
1.3 参加者の属性	2
2. 主なご質問・ご意見(保護者説明会)	4
3. 主なご質問・ご意見(地域説明会)	6
4. 議事録(保護者説明会)	8
4.1 第1回議事録	8
4.2 第2回議事録	20
5. 議事録(地域説明会)	24
5.1 第1回議事録	24
5.2 第2回議事録	44
6. 議事録(教職員等説明会).....	63

1. 説明会の概要

1.1 説明会実施の背景・経緯

上尾市学校施設更新計画基本計画（令和5年3月改定）における学校規模適正化の基本方針に基づき、「上尾市立平方北小学校の再編に係る方向性（素案）」を作成した。これに伴い、児童の保護者、教職員、および地域住民の意見、要望を把握するため、説明会を実施した。

1.2 説明会の参加者

開催日	対象者	参加人数
6月18日（木）	教職員等※	19人
7月12日（日）	現役保護者・未就学児保護者	18人
7月14日（火）	現役保護者・未就学児保護者	8人
7月25日（土）午前	地域住民	22人
7月25日（日）午後	地域住民	19人

※校長、教頭、教員11名、給食調理員2名、市費事務1名、栄養士1名、アッピースマイルサポーター2名

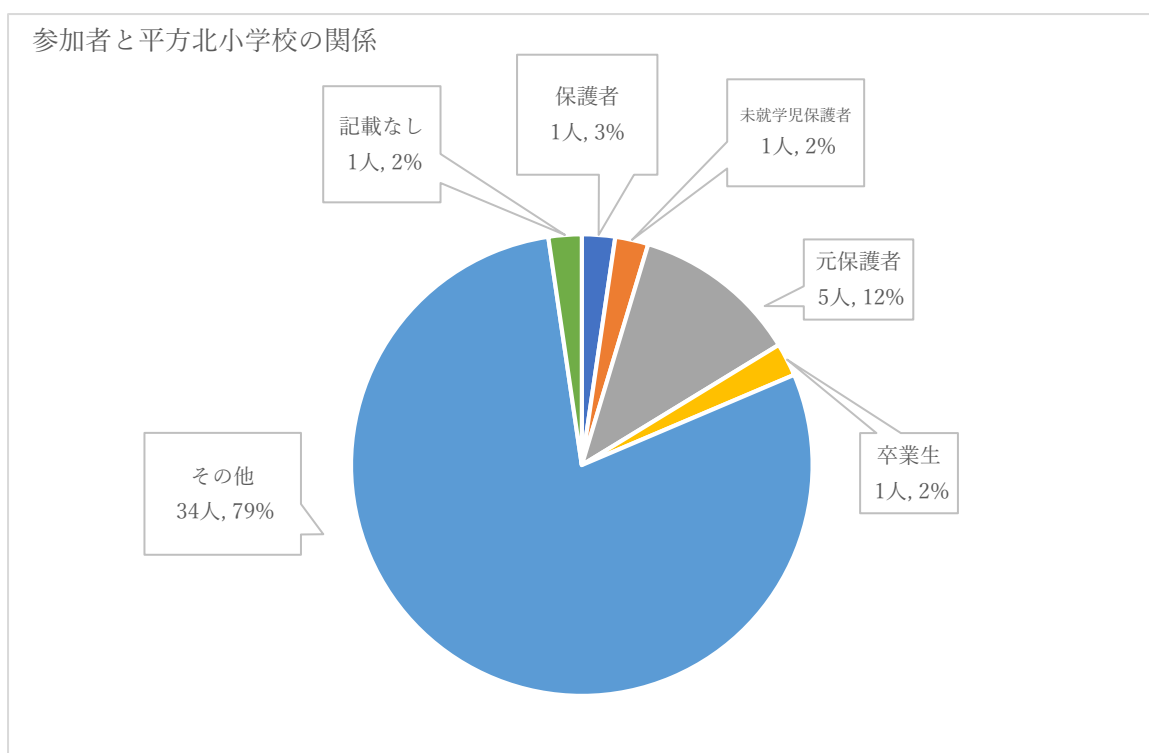
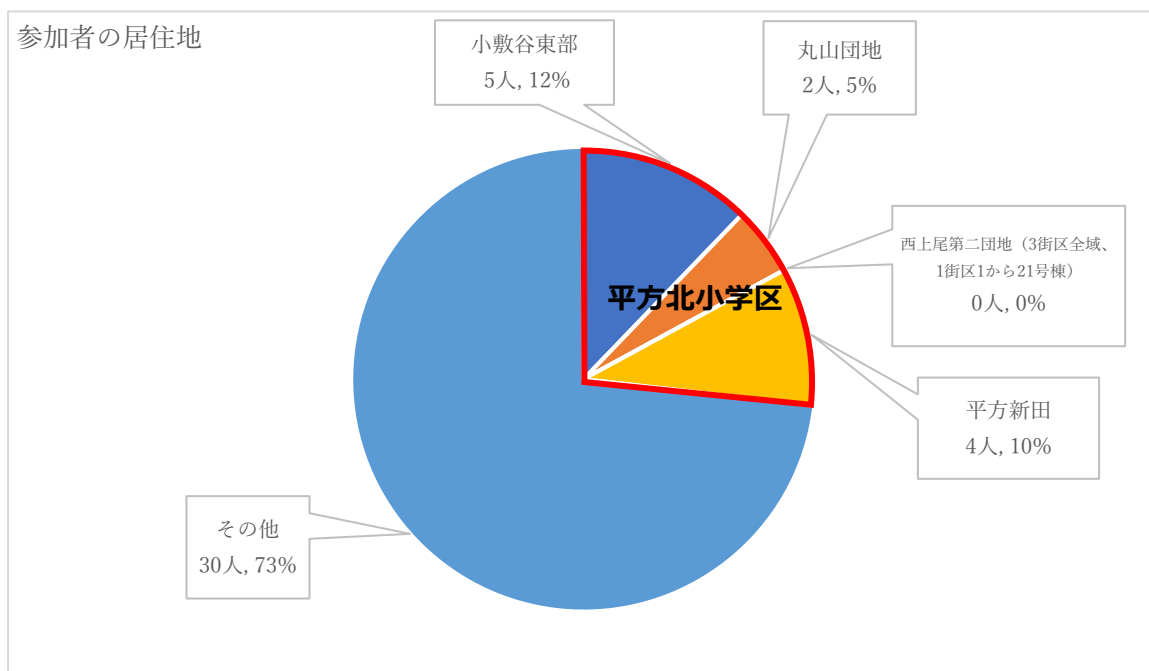
1.3 参加者の属性

○説明会（現役保護者・未就学児保護者）

※複数選択可

0歳(2026年4月2日～)		2
0～1歳(2025年4月2日～2026年4月1日)		1
1～2歳(2024年4月2日～2025年4月1日)		2
2～3歳(2023年4月2日～2024年4月1日)		3
年少(2022年4月2日～2023年4月1日)		3
年中(2021年4月2日～2022年4月1日)		2
年長(2020年4月2日～2021年4月1日)		3
小学1年生(2019年4月2日～2020年4月1日)		6
小学2年生(2018年4月2日～2019年4月1日)		4
小学3年生(2017年4月2日～2018年4月1日)		9
小学4年生(2016年4月2日～2017年4月1日)		1
小学5年生(2015年4月2日～2016年4月1日)		2
小学6年生(2014年4月2日～2015年4月1日)		1

○説明会(地域住民)



2. 主なご質問・ご意見(保護者説明会)

1. 手続き・決定プロセス・意見の反映について

質問：今回の説明会は「決定事項の報告」ですか。それとも意見によって案が変更・再検討される「協議の場」ですか。

回答：決定後の報告ではなく、再編案を作成する前の「意見聴取」の段階です。いただいたご意見やアンケート結果、通学区域審議会での議論を踏まえ、見直しや修正が必要と判断した場合は案を変更する可能性もございます。反対意見があるから一律に凍結するのではなく、ご不安を解消する具体的対策を講じながら子どもたちにとって望ましい教育環境を実現できるよう丁寧に進めてまいります。

質問：最終的な決定権は誰が持ち、保護者の意見はどのように反映されますか。

回答：通学区域審議会での審議を経て、教育委員会で最終決定いたします。意見の多寡だけでなく、協議を深めるべき視点なども考慮し総合的に判断してまいります。

質問：通学区域審議会に当事者（保護者）の意見は届くのでしょうか。

回答：通学区域審議会には市議会議員や自治会、PTA 代表、校長等が委員として参加します。委員の皆様にはそれぞれの代表として、審議に臨んでいただけるよう対応いたします。

2. スケジュール・再編までの期間について

質問：再編まで約5年というスケジュールは長すぎて不安です。もっとスピーディーに進められませんか。

回答：行政手続きの部分はできる限りスピーディーに進めてまいります。ただし、決定後の約2年間（再編準備期間）は、子どもたちの事前交流や心理的ケア、教育カリキュラムの調整など、子どもたちが無理なく新しい環境に馴染むために必要な期間と考えております。

質問：再編前に新しく入学する子どもについて、あらかじめ再編先の学校を選択して入学することはできませんか。

回答：他市の事例では、移行期間中に新入生が最初から統合先の学校等を選択できる制度を設けているケースもございます。いただいたご意見を踏まえ、慎重に検討を行ってまいります。

3. 特例措置（指定校・選択校）について

質問：「特例措置」の対象範囲と基準はどうなっていますか。

回答：再編時に在籍している児童と、その兄弟姉妹（小学生としての在籍期間が重複する児童）を想定しています。在籍期間が重ならない未就学の弟妹については原則対象外としておりましたが、保護者の送迎負担や通学班の編成に関するご要望として、今後の検討材料とさせていただきます。

質問：特例措置で小学校を選択した場合、中学校進学時はどうなりますか。

回答：例えば大石南中学校区にお住まいの方が、特例措置で平方東小学校を選択した場合、中学校も太平中学校を選択することが可能という想定をしております。

4. 通学環境・通学路の安全について

質問：通学距離が伸びることや、交通量・歩道のない危険な通学路、酷暑期の体力負担が心配です。

回答：通学路の安全面（歩道の有無や大型トラックなどの交通量）や、昔と比べた夏の気温・酷暑問題、通学距離を踏まえた上で検討・判定を行う必要性については認識しており、いただいたご意見・懸念として検討してまいります。

質問：通学区域の境界や距離の設定に不均等があるのではないのでしょうか。

回答：現在の素案は中学校区や平方北小学校ができる前の旧学区をもとに作成しました。特例措置による近隣校の選択肢も含め、地域のバランスや安全面を考慮して検討を進めます。

5. 教育効果・児童の心理的影響（小規模校のメリット・デメリット）について

質問：1学年1学級でも安定して教育が行われているのに、なぜ再編が必要なのですか。クラス替えないことで悪影響となるデータがあるのですか。

回答：単学級や小規模校が直接的に不登校や問題行動を増やすという定量データがあるわけではなく、現在の落ち着いた教育環境も認知しております。しかし、一定の集団規模があることで、多様な考え方に触れる機会の確保や、万が一トラブルが起きた際に環境を変えてリセットすることが難しくなるリスクを回避できると考えております。

6. 中学校や周辺校の動向について

質問：近隣校（大石南小、大石南中や太平中）も再編の対象になるのでしょうか。

回答：近隣校のうち大石南中学校については、今年度より再編検討協議会を立ち上げ、協議をしていく予定です。

3. 主なご質問・ご意見(地域説明会)

1. 再編検討の基準・適正規模について

質問：なぜ12～18学級が「望ましい規模」とされているのか。文科省の「標準」であり義務ではない。小規模校には手厚い指導などメリットが大きいと、小規模校を残す選択肢もあるべきではないか。

回答：学校施設更新計画策定時の市民アンケートや、学校教育基本法施行規則の標準（12～18学級）を参考に決めました。社会性の育成や切磋琢磨には一定の規模が必要であり、総合的に判断してデメリットの方が大きいと認識しています。

質問：平方小学校も単学級が増えれば再編対象になるのか。逆に20～30クラスある大規模校の弊害（いじめ・保健室のパンク等）は放置されているのではないか。

回答：どの学校でも「1学年1学級が5年以上継続」が見込まれれば再編検討協議会を設置する方針です。大規模校については児童数の減少推移を見守りつつ、個別の課題も含めて対応していきます。

2. 再編案の内容・スケジュール・手続き

質問：具体的な再編時期は令和何年度になるのか？

回答：現時点では決定事項ではなく目安であるが、令和12年度頃を想定しています。今後の審議会等の進捗により変更となる可能性もございます。

質問：吸収合併ではなく、校舎や学校名を新しくする等の対応はできないのか？

回答：現時点で新しい学校を作るような方向性の協議は行っておりません。

質問：今後再編案についての説明会は再度開かれるのか？

回答：今回いただいた意見を踏まえて通学区域審議会で審議し、具体的な「再編案」が作成された段階で、再度説明会を開催する予定です。

3. 子供への影響・意見の反映

質問：当事者である子供たちの気持ちや意見を聞かずに進めて良いのか？

回答：決定前の段階で直接意見を聞くことは、子供に心理的なプレッシャーや負担を与えてしまう懸念がございます。大人の責任、教育委員会の責任として判断すべきと考えています。

4. 通学環境・学童保育・特例措置

質問：選択できる学校の範囲（特例措置）や通学の安全確保はどうなるのか？ 距離が近い学校だけでなく、他の選択肢も設けてほしい。通学距離が長くなることでの熱中症・事故リスクや、スクールバス導入時の負担増が心配である。

回答：選択校の範囲等は今回いただいたご意見を踏まえて通学区域審議会にて協議していきます。通学

距離は平均1.5 km 以内となる見込みですが、安全面も含めて慎重に協議してまいります。

質問：再編に伴い学童保育の受け入れはどうなるのか？

回答：学童の整備も学校再編の「一つのパッケージ」として捉えており、責任を持って体制を整備してまいります。

5. 特別支援教育への影響

質問：計画の中で特別支援学級や障害児への配慮が欠落しているのではないか？

回答：特別支援学級は通常の学級とは編制・教員配置基準が異なり、規模にかかわらず全校設置を基本に必要な学級数を確保する方針です。いただいた懸念は今後の検討の参考とさせていただきます。

6. 地域コミュニティ・防災・まちづくり

質問：学校は地域コミュニティや防災の拠点であり、定住人口の減少にもつながる。教育委員会だけでなく、市長や都市計画部署も交えて議論すべきだ。

回答：まずは子供たちの教育環境の改善を最優先として検討しています。統廃合となった場合には、跡地利用や避難所機能の確保については、防災部局等と連携して地域の不安を解消できるよう検討していきます。

7. 行政の進め方・説明会の開催ペース

質問：なぜ4年前の学校施設更新計画の説明会からこれまで、地域説明会が開かれなかったのか？

回答：計画改定後、再編検討協議会での議論や素案を作成する準備に時間を要したためであり、提示できる状態になった段階で今回開催させていただきました。

4. 議事録(保護者説明会)

4.1 第1回議事録

日 時	令和8年7月12日(日) 10:30~11:50
場 所	平方北小学校体育館
参加人数	18人
意見・要望等	
参 加 者	5年生と3歳児の保護者です。本日はありがとうございました。 本説明会の開催に先立ちまして、事前質問ということで、インターネット上で記載をしました。募るものがあつたのでそちらの方に大量に質問を送ってるんですけども、皆様ご確認いただいてるんでしょうか。
司 会	質問については確認させていただいておりますが、こういった内容の質問でしょうか。
参 加 者	皆さんの貴重な時間を使って私の質問だけをさせていただくのは申し訳ないんですけども、非常に多くの質問をさせていただきました。もし時間が許すのであれば、この場でもお伝えはいたしますが、私も働いてる身ですので、自分の貴重な時間を使って作った質問に対して、この説明会の中で回答がいただけない、事前に用意されてないことですか、皆さんが把握されていないことっていうのが、もう既にちょっと憤りを感じる部分でもあります。いかがいたしましょうか。
新しい学校づくり推進室長	事前にいただいた質問につきましては、もちろん把握しておりますので、こちらで回答させていただきます。 質問① 『今回の説明会は、意見を受けて案を修正する余地がある「協議の場」なのか、それとも既に決定済みの方向性の説明会なのか。』といったご質問ですが、先ほどもご説明いただきましたとおり、この説明会はあくまでも意見聴取の場ですので、ご意見をいただきまして、修正や追加の検討等をさせていただければと思っております。
新しい学校づくり推進室長	質問② 『これまでの協議結果と今回の「素案」は、どの段階でどの主体が最終決定権を持つのか(教育委員会・審議会・市議会等の関係)。 保護者・地域の意見は、どの程度まで再編案に反映される想定なのか。反映

	基準や判断基準はあるのか。』というご質問でした。 再編方法については、通学区域審議会での審議をとおして最終的には教育委員会で決定する予定です。通学区域審議会には市議会議員も当然委員として参加しますし、市議会への報告も随時行ってまいります。 また、判断基準といたしましては、意見の多い少ないは当然あるかと思いますが、もう少しこの部分については検討が必要だなという点ですとか、再編検討協議会で出た意見とは相反する意見が多い点など、もう少し検討が必要だなと思われることについては意見数にとらわれず、参考にさせていただきたいと考えております。
新しい学校づくり推進室長	質問③ 『説明会で出た意見が反映されなかった場合、その理由はどこでどう公開されるのか。』といったご質問ですが、反映されなかった理由を公開するかについては検討とはなってしまいますが、この会を開催した開催報告として、説明会でいただいたご意見は HP 等々にて公開する予定です。
新しい学校づくり推進室長	質問④ 『特例措置の対象が「再編時の在校生とその兄弟姉妹児」とされているが、理由と根拠は何か。今後入学予定の児童（現時点で未就学児・低学年未満）は対象外となる理解でよいか。うちのように「現在 5 年生の子と、未就学児（3 歳）」がいる場合、 ・上の子は影響対象 ・下の子は対象外（入学時には既に再編後） という整理で間違いないか。「兄弟姉妹児」という条件は、どの時点の関係を基準にしているのか（再編決定時点・実施時点・入学時点）。』というご質問ですが、 特例措置について対象者を限定するのか、しないのかそれぞれ再編検討協議会で検討を行いました。対象者を限定しないと児童数が不安定な状態が続いてしまいます。児童数は教員数に大きくかわる部分です。また特例措置については、少人数で編入する児童への配慮や、兄弟姉妹が別の学校になることを避けるために設けるものと考え、今回は在校生とその兄弟姉妹に限定することを想定しました。よって、対象の兄弟姉妹については再編時の在校生と小学生である期間が被っている下の子を対象と考えております。ですので、いただいたご質問の場合は、小学生の在籍期間が被らないため、今回想定していた特例措置ですと対象外となります。
新しい学校づくり推進室長	質問⑤ 『「距離の近い学校のみ選択できる」とは、具体的にどのような基準（距離・

くり推進室長	時間・通学路安全・学区境界)で決まるのか。保護者が複数校から選ぶ場合、その判断主体は完全に保護者なのか、それとも教育委員会側で制限・承認があるのか。『選択できる学校』と『選択できない学校』の線引きは誰がどう決めるのか。』というご質問ですが、回答といたしましては、「距離の近い近隣校のみ選択できる」の選択肢について、再編検討協議会で出した事務局案は次のとおりでございます。 大石南小が指定校となった場合は、距離の近い平方東小も選択可能な学校となり、平方小が指定校となった場合は、大石南小、平方東小も選択可能な学校となり、平方東小が指定校の場合は、他に近い学校はございませんので選択はできません。 教育委員会にて指定校を設定し、在校生とその兄弟姉妹については指定校を選択するかの意見聴取をすることになるかと思われます。
新しい学校づくり推進室長	質問⑥ 『人間関係の変化や通学距離増加について、実際にどの程度の心理的・生活的影響を想定しているのか。既に単学級で安定している学年についても再編を行う理由は何か。『クラス替えがないことのデメリット』とされているが、実際に不登校・問題行動等との関連データはあるのか。』というご質問でございます。 まず、「心理的・生活的影響」についてですが、子どもたちにとって、環境の変化や通学距離が延びることは、一時的に大きな不安や心身の負担になり得ると重く受け止めております。そのため、再編にあたっては新旧学校間での事前交流など、段階的な移行期間を設け、生活への影響を最小限に抑えるよう全力でサポートしてまいりたいと考えております。その上で、「すでに安定している学年も含めて再編を行う理由」および「教育効果の定量的根拠や関連データ」についてですが、小学校においてクラス替えがないこと、単学級が継続するということが、直接的に不登校や問題行動の増加に直結するという特定の定量的な因果関係を示すデータがあるわけではございません。現在、平方北小学校において、落ち着いた環境で温かい教育が行われていることも十分承知しております。しかしながら、一定の集団規模があることで、多様な考え方に触れる機会が確保されたり、万が一トラブルが起きた際に環境を変えてリセットすることが難しくなるリスクを回避できると考えております。
新しい学校づくり推進室長	質問⑦ 『今回の説明会は、行政手続き上どの段階に位置するのか（意見聴取・パブコメ前・決定後報告など）。今後、案が変更される可能性があるとするれば、どの段階でどの条件を満たした場合か。住民合意が得られなかった場合、再検

	討・凍結などの選択肢は制度上あるのか。』というご質問でございます。 今回の説明会は、「決定後の報告」ではなく、再編案を作成する前の意見聴取の段階でございます。教育委員会といたしましては、保護者や地域皆様の代表による「再編検討協議会」の協議結果をふまえて「素案」を作成した段階であり、今回はこの素案に対して、保護者や地域の皆様から広く率直なご意見を伺うために開催しております。次に、「案が変更される可能性やその条件」についてですが、今回皆様からいただく説明会でのご意見やアンケートの結果、また今後開催を予定している「通学区域審議会」での専門的な審議を踏まえる中で、内容の見直しや修正が必要であると教育委員会が判断した場合には、当然、案が変更・修正される可能性はございます。特定の条件が満たされたら自動的に変わるというものではなく、皆様の声を真摯に受け止め、総合的に判断していきたいと考えております。最後に、「再検討や凍結の選択肢」についてですが、平方北小学校における「令和2年度からの全学年単学級の継続」という、子どもたちの教育環境に関わる課題は現実存在しており、今後も長期化することが見込まれています。そのため、単に反対意見があるから一律に凍結・中止ということではなく、皆様が抱かれるご不安やご懸念を一つ一つ解消するための具体的な対策を講じながら、子どもたちにとって真に望ましい教育環境を早期に実現できるよう、一步一步丁寧に進めてまいりたいと考えております。 事前にいただいたご質問は以上でよろしいでしょうか。
参 加 者	ありがとうございました。そうしましたら回答いただいた内容の中で、追加でちょっと質問をさせていただきたいんですけども、あくまでプロセスの中では、意見聴取いただいて、まだ変更の可能性もあるということでご回答いただいたんですが、変更可能な部分と固定されてる部分と、もう決まっているものがあるのか、それとも全て再検討が可能なものなのかというのをちょっとお聞きしたいです。
新しい学校づくり推進室長	今回ご説明させていただいたものは、再編検討協議会を踏まえて作成した再編に係る素案となりますので、まだ確定しているものではございません。様々なご意見を忌憚なくいただければと考えております。
参 加 者	ありがとうございます。今、先ほどスライドでもありましたけれども、審議会というところでこの後協議決定されたものが、審議会にかかってくると思うんですけども、審議会の構成メンバーというのはもう決まっているのでしょうか。
学 務 課 長	通学区域審議会というものになりますけれども、メンバー等決まっております。

	して、今年度も 8 月に第 1 回目が開催予定です。そこで若干の変更はあるかもしれませんが、市議会議員や自治会長、自治会の代表、PTA の代表や小中学校の校長、学識経験者等で構成されています。
参 加 者	ありがとうございます。今いただいたお名前、役職のお名前ですと当事者っていうのは、この審議会には入ってこないという認識でよろしいでしょうか。
学 務 課 長	市議会議員や自治会代表といったそれぞれの代表が平方北小学校の学区にお住まいかまでは、大変恐縮ではございますが、詳細を確認できていない状況です。
教育総務部長	補足ですが、通学区域審議会は市議会議員や自治会の代表が参加するとのことですが、市民全体の声を拾うという意味で市民の代表である市議会から代表を出していただいている、自治会の方も上尾市の自治会連合会の代表として推薦していただいておりますので、例えば原市地区の方であったとしても、自治会連合会のご意見として賜りますので、平方地区のご意見も踏まえたご意見としてご発言していただきます。全市的なご意見をいただきたいということで出させていただいたものになります。
参 加 者	ありがとうございます。ぜひそういった方々にまずは、当事者である児童が意見を言うのは難しいかもしれませんが、児童の保護者から意見を吸い上げていただいた上で臨んでいただきたいなというふうには思います。でなければ形式上のものということにとどまってしまうので、形上は確かにそういった役職の方というのは、市民の声を受けてその場に立っているというふうにとれますけれども、実際どうなんだっていう話がありますので、ぜひ具体的に意見を吸い上げていただいてからその場に立っていただけたらなというふうに個人的な気持ちはあります。すみません、他の方がいなければまた質問します。
参 加 者	2 年生の保護者になります。まず一点ですね、先ほど事前にアンケート等で質問を既に集めていて回答もご用意できているのであれば、できればそれを事前に今日とかですね、教育に関わることですので、それを配布でですね、ご回答とかわかるようにしていただけたら親切なのかな、丁寧なのかなと思いますので、そちらの方今後お願いできればと思います。 質問の方なんです、こちらの地域の学区のところですかね。距離とかっていう学区の分け方というか再編方法なんです、こちら通学距離で平均っていうふうに表示が出ているんですが、その平均がすごく偏りがあるんじゃない

	いかなと思います。一方では 1.24 kmでありながら、もう一方では 0.5 kmという形で、これ距離で判断は何か区分けしたのかなというふうに見えるんですが、その距離の方がなぜこのぐらいちょっと不均等なのかなというところの理由を教えてくださいたいのと、あともう一点、特例措置を取った場合に、この距離の問題は特例措置があれば解消できるという判断にはなると思うのですが、例えば小学校のとき特例措置使って、でも中学に上がったときはこの特例措置からは外れまして、決められた学区の方の中学に進んでくださいという話になるのかどうかというのをちょっと教えてくださいたいなと思います。
新しい学校づくり推進室長	まず中学校の方ですが、今の案ですと在校生とその兄弟姉妹については特例措置の対象としています。例えば大石南中学校区にお住まいの方が、平方東小学校を選択した場合、太平中学校も選択することが可能です。 また、距離についてですが、もともと平方北小学校ができる前の学区をもとに作成したものでございます。通学距離に大きな開きがあるということですが、在校生については特例措置によって近い学校を選択することが出来ます。
参 加 者	ありがとうございます。昔小学校のときからですね私はずっと平方小にいたのですが、この地域で言うところのまるたけというスーパーが多分おわかりになると思うんですけど、まるたけのスーパーの裏に住んでいる子も平方小に通学していたんですよ、私の時代は。なのでこの際にですね、もう少しそういった距離の部分でこのように表を出して距離を平均でいくつっていうふうに距離をだいたい配慮してますよってという説明をするのであれば、もう少しその距離のことを考えた線の引き方の方がいいのかなと思います。またそれ以外の人数のバランスや、今後の地域開発で生徒が増える見込みとか、そういうことまで含めて学校全体の人数のバランスを考えてるということであれば、できればそういったところもわかるようなそういった表ですとか図とか住宅地域開発している方針とかっていうのを出示していただけたら、私達もわかりやすいのかなと思いますので、今後もしそういったところを検討していただけるようであればよろしくお願いいたします。以上となります。
司 会	ありがとうございます。補足ですが、通学区域を分ける場合のシミュレーションについては再編検討協議会の第 6 回の資料にございます。本日の資料ではご説明できませんでしたが、再編検討協議会の議事録からご確認いただくことも可能です。
教育総務部長	先ほどの方からもご意見いただきましたが、本日いただいたご質問と回答

	につきましては後日まとめましてホームページのほうで議事録とともに公開させていただきたいと思います。現役保護者の方へはさくら連絡網にて、未就学児保護者の方へは郵送等でお知らせできればと考えております。
参 加 者	同じく小5と3歳の保護者です。よろしくお願いします。 この人数を見てわかる通り在校生の中でも下に未就学児がいるとかその再編案に関わる子どもがいるかによって、その同じ小学校の中でも意識が全然違うと思うんです。なので、ここに来ている人数がすごい少ないのにびっくりしたんですけど、下に小さい子がいなければもう卒業しちゃっておしまいなので興味ないと思うんですよね。同じ小学校の保護者の中でも。なので同じ地域にいる人に意見を吸い上げてもらってちゃんと話をしてもらえますよっていうのもわかるんですけど、その人にお子さんがいるとか、お孫さんがいるとか、そういうので全然向かう意識が違うと思うので、その当事者の気持ちっていうのはちゃんと文章に残していただけたらありがたいです。特例措置の対象になるのが、再編時の在校生ということなので学年的にもう上の子は卒業してしまっていて特例措置に入らない、下の子が入らないのかなっていうちょっとギリギリのちょうど入学するかどうかっていう再編の時期について微妙なところなんですごく不安なんですけれども、さっきの地図で言うと自宅の位置が平方小に編入になる位置なんですけれども、お兄ちゃんが通っているのはその入学時には太平中なので、こういう話し合いつて大体再編は決まってる、形だけの話だよって言うので、もうじゃあどこになるんだろうって言うのだけが心配って言うところもあったので、その心配をしています。平方東小に行けたらすぐ隣にお兄ちゃんがいるから安心だよって言う話をしていたんですけど、それが選べるのか選べないのかって言うのがちょっと気になります。
教育総務部長	今上のお子様は5年生ということなので、再編時には卒業されていて、下の子は対象になるのかということですよ。
新しい学校づくり推進室長	先程ご説明させていただいた段階ですと、現在の素案では再編時の在校生と在学期間が重複している場合に、特例措置の対象と検討しておりました。兄弟姉妹で隣同士の学校であればなにかあったときに一緒に迎えにいきやすいといったご意見とかご要望だと思います。再編検討協議会ではなかったご意見でしたので、一度ご意見として承らせていただきたいと思います。
教育総務部長	先ほどから話しているとおり、今回いただいたご意見を踏まえて、通学区域審議会で諮問の内容を決定していきます。通学区域審議会では特例措置のことまで当然検討していくと思いますので、そういったところで説明会ではど

	ういったご意見があったのかを当然お知らせしていかなければなりません。しっかりと情報提供した上で、通学区域審議会の方で答えを出して、その答えを持って教育委員会で最終に判断し決定することになるかと思います。段階的には何回かこれを議論していくタイミングもございますので、その際にはしっかりと今回いただいたご意見を伝えたいと思います。
参 加 者	ありがとうございます。ご自身のお子さんが急に通う学校がなくなって、もしかしたら距離的に毎日送迎しなきゃいけないかもとか、そういう心配が出てくるっていうのをちょっとイメージして話し合いを進めていただけるとありがたいかなと思います。
参 加 者	すみません、続けてになるんですけれども、先ほど最初の私の質問のところで、まだ決まっていはいないが、特例措置で学区が平方北小だった場合は、平方小、平方東小が選択できる方法みたいなお話ありましたでしょうか。
新しい学校づくり推進室長	指定校とプラス近隣校を選択できるというお話でよろしかったでしょうか。
参 加 者	そのお話の中で多分出たのかな。そしたら、それは特例措置の中で特例措置に該当すればっていう認識でよろしいですか。
新しい学校づくり推進室長	特例措置の場合として在校生やその兄弟姉妹については指定校の他に近隣校も選択できるという案にさせていただきました。 ある程度進学先を限定しないと、児童数が不安定になり学校運営に影響を及ぼしますので、最終的には指定校へ進学することを想定しています。
参 加 者	ありがとうございます。確認でございました。 あと意見ということで申し上げさせていただきたいんですけれども、他の方もおっしゃってたんですが、距離の部分についてはお話あった通りなんですが、私の方からですね、毎日私息子を、小学校まで送っているんですね。なぜかというと歩道がないんです。通学路に歩道がなくて、大型のトラックなどが通る通学路があるんですね。そこにスクールガードの本当にありがたい、いつもいらっしゃっていただいている方もいるんですけれども、そこまでは来れないんですね。だから私が行っているんですけど、距離だけじゃないんですね、通学路というのは、安全面。本当に児童が通うルートを細かく検討した上でそういった想定をしていかなければ、本当に机上の話だけで子どもたちが実際に敷かれたレールに乗っていくということになってしまいますので、ぜひ歩いてみたりもしていただいた方がいいんじゃないかなって

参 加 者	うのは、あとそんな歩いてみるっていうのは嘘なんですけど、市道ですから歩道があるなしなんていうのはすぐ調べればわかることでしょうから、そういったところを調べての検討もぜひいただきたいなという意見でございます。 この度はこのような機会をいただきましてありがとうございます。未就学児の母です。来年から小1の予定です。意見が二つと質問が一つです。 意見としては54年前の通学区、北小学校ができる前の学区でひとまず分けてみたっていう案があるんですけども、北小ができる前と現在とでは夏の長さも違いますし、気温も全然違いますので、先ほどもね、通学路の整備がという話もありましたけれども、気温のことも考えてやはり距離、あと特例措置っていうのを決めていただきたいという意見と、もう一つ意見が、息子がちょうど生まれたのが令和2年でその頃から1学年が北小で続いている。私達もここに住み始めてもう5年、北小がなくなるかもという不安な思いと、息子がどこの小学校に行くのかという思いを抱えながらこの場に臨んでるんですけども、今後さらにもう5年かかると。あまりにもちょっとマイペースすぎるのではないかなと思ひまして、やはり皆さんの意見を吸い上げて検討するというのは時間のかかる問題ではあると思うんですけども、もうちょっとスピーディーにならないのかという気持ちがございます。あともう1点質問なんですけれども。すみません、大切な質問を忘れてしまったのでちょっとまた思い出したらお願いします。
参 加 者	今5年生と3年生の保護者で未就学児が1人おります。ちょっと可能性だけの話なんですけども、再編が行われたときに、あと5年後とかに、例えば近所のご家庭の同学年の子がいたときに、そのお兄さんとかお姉ちゃんとかが特例措置で、例えば平方東小に行って、兄弟も東小になるっていう場合だと、うちは今この地図上だと大石南小学校に通うことになるんですけども、そのご近所同士で違う小学校に通うとなると通学班が組めないんじゃないかなとか、そういう問題が出てくるんじゃないかなと思ひましたので、多分特例措置を受けられないご家庭とかにも何かちょっと措置があった方がいいんじゃないかなっていうのが、思ひました。それはちょっと本当可能性だけなんですけど。ご検討があった方がいいのかなと思ひました。お願いいたします。
新しい学校づくり推進室長	通学班につきましては、大切な問題だと思いますので、いただいたご意見については検討させていただきます。
教育総務部長	以前も大石小学校の通学区域を西小学校に移行するということを数年前に

	行いました。その際にやはり移行する際には経過措置を設けて、その一部の地域については西小学校に通う児童と大石小学校に通う児童が混在するような状況が一時期ございました。そういった時の情報もございますので、今すぐにはどういった状況だったのか資料がないので、お答えできないのですが、それに対してもご質問に対してはこういった回答ですと一覧にまとめて文書にしてお知らせしたいと思いますので、よろしくお願いします。
参 加 者	すみません。未就学児の母です。質問思い出したので質問させていただきます。これから北小を再編していくっていう検討にあたってなんですけれども、先ほどプロジェクターにもありましたけど、その理由として、切磋琢磨する機会を損失しているっていう教育委員会の方針といいますか、考え方があるということだったんですけれども、もう結果が出るまで、10年間もその言い方はあれですけど、犠牲というかその切磋琢磨する期間を失っている子どもたちがいると思うんですけれども、今素案が出た段階として、なんていうんでしょうか選択式。それから小学校に上がる子だけでもいいんですけれども、これからの子を選択させながら、並行してその結論を求めていくっていうダブルスタンダードで対応していただくようなことって検討されていないんですかね。
新しい学校づくり推進室長	今現在はそのような検討はしていないのですが、今後再編が決まって再編準備をしていくという段階で移行期間を設ける必要があるのではということですが、他市の事例では、再編するまでに移行期間を設け、再編前に統合先の学校へ先に行くことも可能としている事例もございますので頂いたご意見を参考にしながら、移行期間については慎重に検討してまいりたいと思います。
参 加 者	ありがとうございます。ご意向とちょっと時間がかかっているところがかかなり矛盾を感じるので、先ほどの意見に重なるんですけどスピーディーなご判断をお願いします。
参 加 者	4歳児の子どもの保護者です。先ほどの保護者の方と本当に同じ感想で意見があります。この学校の再編がもう既に決まっている状態でしたら、再編のスケジュールが長すぎるかなと感じています。今すでに2年かけていて、これからまた5年かかるということは、要は7年間かかってしまう。これから平方北小学校の児童は令和14年まで、毎年ほぼ100名で、約600名の児童とその家庭に影響があります。もう既に不安が伝わっていて、自分の子どもがこれからこの学校に入るんですけど、例えば私の娘でしたら、小学校に入って最初からもうあなたの学校は3年生になったら再編されますよとなった

	ら、最初からもう悲しい気持ちですし、親もちょっと不安な気持ちのままです。何も確定な情報がなくて、5年後ですね、ずっとこういう気持ちでこの学校に通うかどうか、通って結局再編されちゃいますということは、最終の決定までの時間が長ければ長いほど影響してる子どもと家庭が増えてるだけだと思います。 あと、もし情報あれば聞きたいのですが、上尾市では学校の再編は前例がないんですか。もし前例があれば、当時はどのように行われていて、実行した結果によって、いろんな親から何か意見とか、子どもから何か、実はこういうふうにすればよかったとか、そういう何か意見がなかったんですかとかその辺の情報がもしあればぜひ何か参考したいなと思います。うちも子どもが1人だけですし、正直分らないです。このまま子どもに住まわしていいか、あとどう意見出せば子どもにとっていいかとか、あんまりわからなくて、なので前例とか何か参考できたらもっといいかもしれないです。ありがとうございます。
新しい学校づくり推進室長	再編の前例についてご質問があったかと思いますが、上尾市で再編の検討を始めたのはこちらの平方北小学校が初めてでございます。他市の事例では再編した市町村も多くございますので、そちらの情報を収集し提供していきたいと考えているところでございます。
教育総務部長	また、一点目のご意見の中でスピーディーという話がありましたけれども、今回目安として5年間と示させていただきましたが、通学区域審議会は基本的には年1回程度実施しているところを3～4回程度に増やしスピーディーに進めていきたいと考えています。決定までのプロセスについては、学校施設更新計画を作った際にも説明会を行ったのですが、その際に市議会や地域から、よく地域に対して説明をして地域の声を吸い上げてほしいという要望があったため、こういったスケジュールを作っている状況です。ただそれもスピーディーにできないということではないと思いますので、決定までのプロセスはある程度進められると思います。しかし、最後決定してから再編までは、子ども達のメンタルを考えると、ある程度時間をかけたうえで、統合先の学校とも交流しながら、カリキュラムの調整などが必要です。そういったことを考慮しますと決定してからある程度の時間を確保しなければならないと考えております。それ以外の部分についてはスピーディーに進めてさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。
参 加 者	0歳児の保護者です。再編に関わる方向性ってことなんですけど、これはそもそも北小学校を残すっていう選択肢はもうゼロなんですか。少人数制の教育って結構メリットあると思っていて、先生が1人1人の子どもにちゃんと

新しい学校づくり推進室長	向き合えるっていうと、そういったところで何かゆとりある教育とか受けられると思うので、その辺ちょっとどうなのかなと。可能性はそもそももうゼロですか。 方向性という段階ですので、ゼロではないですが、上尾市の考え方ですとか地域の実情というところで再編検討協議会を設置させていただいたところ、1クラス10人程度の学年の保護者の方から小規模のメリットという部分を考慮しても少なすぎるといようなご意見もいただきましたので、方向性としては、少なくともクラス替えができる2クラス以上を目指すというところでございます。
参 加 者	ありがとうございます。先ほど通学の距離という話もあったので、自分も距離が延びることに関しては本当にデメリットしかないと思っているので、安全面でしたり、通学路の安全が担保されない中で、やっぱり自分の子どもを任せてそこに通わせるっていうのはかなり抵抗があるので、先ほど前の方の意見もあったと思うんですけど、その辺もやっぱり十分考慮した上で考えてほしいなと思っています。
司 会	他に質問はございますでしょうか。 では、ないようですので質疑応答を終了させていただきます。 以上をもちまして平方北小学校再編に係る説明会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。

4.2 第2回議事録

日 時	令和8年7月14日（火）13：30～14：15
場 所	平方北小学校体育館
参加人数	8人
意見・要望等	
参 加 者	3年生の保護者です。学校の再編は前向きに捉えているのですか。再編はするということでいいんですか。素案となっていますが、途中で白紙になるってことはあるんですか。
新しい学校 づくり推進 室長	今回再編に係る方向性（素案）ということで、今後進めていくにあたってご意見を頂戴したい場ということで、皆様にお集まりいただいたところでございます。市といたしましては、2年間再編検討協議会で検討した結果、報告したとおり適正規模化が必要であるという方針を持ってこの場にも臨んでいるというところでございますので、再編を進めていければという考えでございます。
参 加 者	ありがとうございます。だいたい4～5年くらいなんですか。今のペースだと。
新しい学校 づくり推進 室長	先ほどのスケジュールにもございますけれども、再検討案の諮問ですとか、その後の再編準備委員会を設ける予定です。他市の再編の状況ですと、その期間で再編先の児童との交流ですとか、そういうものを、段階を踏んでですね、急に新しいところに溶け込むというのも子どもの心理的にも非常に負担がかかるかと思しますので、そのようなことを1年間から2年かけて丁寧に進めていければと考えているところでございます。
参 加 者	小学校の再編の話ということですが、中学校も再編されるんですか。全体的に生徒数が減っているということで大石南中、太平中学校もおいおい必要になってくるんですか。
新しい学校 づくり推進 室長	中学校の方がですね、ちょうど今年度から大石南中学校が再編検討協議会を立ち上げるということになっており、現状といたしましては大石南中学校が数年前からですね、各学年に2クラス、3学年合わせて6クラスの学校となっておりますので、今年度から検討を開始する予定としているところでございます。以上です。

参 加 者	6年生、3年生、年少の保護者です。再編までに4、5年かかるということですが、その間に新しく入学する子を止めるということですか。その時点で違う学校に分散させるということですか。
新しい学校 づくり推進 室長	今現在はですね、意見聴取というところで、再編が決まったわけではございませんけれども、他市の事例といたしましては、再編が決まる前の段階で、移行期間というような形で、新しく入学するお子様につきましては、あらかじめ他の学校といいますか、分割される学校に入学されるような制度を設けているところもございますので、それも踏まえて検討の方を進めていきたいと考えております。
参 加 者	1年生の保護者です。入学してすぐに学校がなくなるかもしれないというお話をいただいたときに、5年後の予定ということは卒業まであと1年というタイミングなのがとても残念な気持ちです。資料を見ると、先生たちの負担を3.1から1.9に減らすために考えていると思うんですけど、今1年生でとても楽しく学校も学童も通っているんですけど、だんだん学校なくなるかもしれないよという気持ちで、あと4年間過ごさなければいけないのでしょうか。
新しい学校 づくり推進 室長	やはり再編検討協議会におきましても一番議論になったところは、在校生の心のケアですとか、在校生にどのように知らせていくかというところが大きな議論になったところでございます。それを踏まえまして、在校生と兄弟姉妹については特例措置ですとか、その辺のことを十分に検討しながら、再編になった場合には進めていきたいなというところでございます。以上です。
教育総務部長	補足でちょっとご説明させていただきますと、前回の説明会でも同じようなご意見も出たところでございます。逆にこのスケジュールを見て、あまりにも長いのではないかっていうご意見もあったところで、なるべく早く再編するならばしてほしいというご意見もあったんですが、縮められる部分っていうのはやはり3年目までの行政の手続きの中の部分っていうのは、ある程度スピーディーに行えば短くできるかもしれないんですが、再編することが決定した後の再編準備委員会を約2年間設けています。これというのは教師の問題というよりも、学校のカリキュラムの問題も当然あるんですが、一番はやはり子どもたちの心の面をうまくソフトランディングさせるというか、うまく新しい学校に溶け込ませていくっていうことはしっかりと、行政として大人として考えていかなきゃいけない部分だと思っておりますので、その辺はしっかりと子どもたちの心のケアをしながら再編が決まった場合には、再編を進めていきたいと考えて時間をとっているところでございます。以上

	でございます。
参 加 者	3年生の保護者です。大石南小学校も少ないような話を聞いていて、大石南中学校も再編対象になっているということですが、その辺りもふまえて考えていらっしゃるのですか。
新しい学校 づくり推進 室長	平方北小学校再編検討協議会では、大石南中学校というお話も出たんですけど、現時点では小学校のみで考えているところでございます。今後大石南中学校の再編検討協議会も始まりますので、その状況を踏まえ、何かしら当然関連が出てくるのかなと想定しているところでございます。
参 加 者	大石南小学校は再編になることはないのでしょうか。
新しい学校 づくり推進 室長	大石南小学校につきましては、現段階で再編検討の予定はございません。
参 加 者	2歳児の保護者です。まだ学校にあがるまで時間はあるんですけど、3年後に小学校にあがるんですが、さっきの質問と重複してしまう部分はあるのですが、学校に入る前に学校がつぶれるとなって、つぶれない学校に選択して進学することは可能ということでしょうか。
新しい学校 づくり推進 室長	今現在ですと再編が決まったわけではないというところもございましてけれども、やはり前回の説明会においても、同様のご意見をいただいておりますので、十分に検討させていただければと思います。すみません、今現在明確なお答えが出せない段階というところです。
参 加 者	自宅からは平方北小学校が一番近いです。どこか違う学校となると通学距離が伸びるということはわかっているんですけど、通学距離が伸びるということによって、夏場とか安全性を考えてって書いてあるんですけど、通学距離が延びることによってリスクが増えると思っています。小学校の子どもがいないので想像が及ばないのですが、親が送迎して通学してもいいものなのか。親が、通学を協力して送迎してもいいのかわからなくて。自分が小学校のころは通学班があってみんなで登校していたと思うんですけど、今の小学生はどうなのかわからなくて、通学班を見かけますが、それが全ての小学校で行っているものなのか、親が送迎していいのか判断がわからないのでそれを聞きたいです。

学 務 課 長	私も学校現場にいましたので、その状況等をお伝えしますが、まずは基本的に通学班というものが学校にはございます。ただ今流れとしましては、通学班ではなくて、個人登校というところも増えてきているところではございますが、今のところは通学班というのが一般的です。もし距離が伸びて学区が仮に大石南小に広がったとしたならば、また新たに集合場所はここにしようというところを、PTAや学校ですとか、そういうところが中心になって通学班の集合場所を決めます。さらにその集合場所までちょっとお父さまお母さまの方で危険だな、ちょっと交通量が多いなと感じるのであれば、そこまで送迎をして、その集合場所までお父さんお母さんの方で届けていただいて、そこから通学班で登校とか、そのような形のご家庭も多くございました。お答えになってるかどうかかわからないんですが、現在は通学班が多くの学校で採用されているというところです。
参 加 者	学校まで親が直接送るということをしてもいいのでしょうか。
学 務 課 長	やはりそこは学校との話し合いになってくると思うんですね。事情があって送らざるを得ないというような状況であれば学校長と学校の方で確認をして、そういうご家庭もございます。
司 会	他に質問はございますでしょうか。 では、ないようですので質疑応答を終了させていただきます。 以上をもちまして平方北小学校再編に係る説明会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。

5. 議事録(地域説明会)

5.1 第1回議事録

日 時	令和8年7月25日(土) 10:30~12:00
場 所	平方北小学校体育館
参加人数	22人
意見・要望等	
参 加 者 (小敷谷東部住民)	2点あって、7月12日と14日に現役の保護者と未就学児の保護者に対しての説明会の内容っていうのは伝えていただいたんですけど、参加の人数ってどのくらいだったのでしょうか。それが1点です。2点目は今回の中身にはなかったんですけど、学童についてです。今の学童って特に平方地区は平方東小も大規模化で学校を間借りしたり、2ヶ所でやっていたり、今聞いたら平方小は指導員が少なくて、中途で入ったりはできないっていうのも聞いたんですけど、再編にあたってその学童の区割りとか、再編の状況はどう考えているのか、その2点教えてください。
新しい学校 づくり推進 室長	1点目のご質問の現役保護者、未就学児保護者の出席者ですが、すみません今手元に資料がなく申し訳ございませんが、合計で20数名だったと記憶しております。2点目の学童の方なんですけれども、学校の再編といえども学童の整備も整って一つのパッケージという認識でおりますので、もし統合となった場合でも学童の方も責任をもって整備をしていきたいと考えているところでございます。
参 加 者 (小敷谷東部住民)	そういった情報も伝えていただきたかったです。今回全くそういったお話がなかったのです。
新しい学校 づくり推進 室長	今ご意見承りましたので、そちらも貴重なご意見ということで検討させていただきます。
参 加 者 (上野住民)	この素案について反対の立場でいろいろ質問がありますのでよろしくお願いします。 第1点は地域説明会の実施なんですけど、これは4年前に33校を22校にするときに1回行われましたよね、地域説明会。それから1回もやられていないんですよ。これどうしてなんですか。いろいろ要望を出してたんですけどね、今度3校をなくすっていう廃校にするって計画が出たときに、再編検討協議

司 会 参 加 者	会を設ける、平方北小、私いつも傍聴してたんですけど、発言や質問の機会がない、聞きたいことがいっぱいあったんですけど、出せないんですよ。ようやくできたことは良かったんです。私、教育委員会に請願出しまして、それが通りまして、地域説明会をやることになり、今やってるからいいんですけど、どうしてこれができなかったのか、その理由を明確に教えてください。 2 番目に質問するわけなんですけど、単学級はね、やはりクラス替えができないとか、デメリットが多いということで、何とかこれを変えようっていう計画なんですけど、今までも単学級ってあったんですね。平方東小や上平北小みたいに。そこも単学級だったんですよ。そのときはこういう状況じゃなくて、何で今回こういうふうに出てきたのか、その状況、理由を説明してほしいと思います。 3 つ目は、平方北小が今の 6 クラス単学級で、私は上野地区なので、平方小は普通学級が 8 クラスなんですね。平方小もみんな単学級になったら廃校になるのかなとか、そういう心配もあるわけですよ。じゃあ 33 校を 30 校にするっていう計画なんですけど、これはこれで終わりなんですか、もっと続くんですか。そういう全体的な上尾市の教育の方向について、その方がやっぱりちゃんと出されてないと、この 3 つだけが我慢すればいいのか、我慢って言ったら変ですけど、しょうがないってするのか、そういう全体的なものが見えないんです。そういうことをやっぱり出して欲しいと思います。今、回答ができないなら、次回もう 1 回こういう説明会をやってほしいと思います。私たちは再編検討協議会には、傍聴ですからね、質問する、発言する権利がありませんので、やっぱりこういう対話ができる地域説明会を必ずやってほしいと思います。 それからもう 1 点ですね。今 1 番大事なのは子どもたち、平方北小の子どもたちの意見、気持ちをしっかり聞いて行われたのか、どうかということです。子どもの権利条約なんかでも、子どもの意見表明権ってありますよね。自分の学校はどうなるんだと。廃校になるんだ、どうするっていう、本当はそれを聞いて欲しいけど、私傍聴してましたけど、それは決まってからやりましょうとなっており、やってないんですよ。これしっかりやってほしいと思います。これは要望になりますけどね。 今回答できないときは、また次回説明お願いしたいと思います。以上です。 質問の意図を確認したいのでお伺いしたいんですけど、4 年前の説明会というのは学校施設更新計画の改定前の説明会ということでよろしかったでしょうか。 そうです。その時に地域説明会が各地区で行われましたよね。その時からや
--	--

(上野住民)	ってないんです。こういう形のものが。そういうことです。
司 会	ということが1点と、今まで上平北小や他の学校でも単学級があったというのは、すべての学年で1学級だったということによろしいですか。
参 加 者 (上野住民)	そうです。そういう時期がありました。
司 会	ありがとうございます。先ほどの4年前の説明会から説明会がないというのが1点と、今までも全学年で単学級になったことがあったにもかかわらずそちらを対応していないのはなぜかということが1点と、33校を30校にするというのは学校施設更新計画、再編検討の対象となっている3校を指しているということによろしいですか。
参 加 者 (上野住民)	それから先がどうなるんですか。それで終わっちゃうのか、もっと続くのかってということです。
司 会	あとは子どもたちに意見を聞いて欲しいというご意見ということですね。
参 加 者 (上野住民)	要望になります。
新しい学校 づくり推進 室長	1点目の4年前に行われた意見聴取から今現在のこの時点まで説明会が開かれなかったということについてでございますけれども、4年前に説明会を行いまして、学校施設更新計画の改定を行いまして、具体的に説明会を開く準備ということで、再編検討協議会ですとか、今回のような素案をお出しするまでに時間を要するといえますか、そのような準備を進めていたというところでございます。今回方向性の素案をお示しできる状態になりましたので、この段階で説明会を開かせていただいたというところでございます。 2点目の方ですね、これまでも単学級はあったのではないかとこのところでございますけれども、先ほどの繰り返しになりますけど、学校施設更新計画策定の中で今後単学級をどうしていくかというところを定めておりますので、更新計画自体は令和5年度に定まったことによって、今回の平方北小学校、予定ですと今年度大石南中学校が再編検討協議会の条例が設置されておりますので、それを踏まえて進めているというところでございます。 今後の全体的な方向性、平方小学校も単学級になってしまうのではないかとこのところでございますけれども、これも同じく計画の中で1学年1学級、単学級の状態が5年以上継続することが認められた場合は再編検討協議会

	によって今後の再編を検討していくという定めがありますので、それに沿いまして、もしも今後新たな単学級の小学校ですとか、中学校ですと 8 学級以下の学校が発生した場合は、まずは再編の検討を進めていくということになると思います。以上でございます。
参 加 者 (上野住民)	子どもたちの意見を聞いてほしいと要望をしたのですが。
新しい学校 づくり推進 室長	再編検討協議会のおきも傍聴していただいたというところですけども、もちろん子どもたちの意見を聞くというのは大切なことだと思いますが、現段階の再編決定前の段階ですと、子どもたちに心理的な、余計なプレッシャーを与えてしまう可能性がございます。逆に再編については大人の責任、教育委員会の責任で決定していくという考えで今現在いるところでございます。
参 加 者 (新田住民)	在校生と兄弟姉妹の特例措置の検討というところで小学校の選択での指定校以外でも、距離の近い学校を選択可能というふうにあるんですけども、距離の近い学校しか選択できないんですか。例えば平方小が近いけど、若干平方東小にも通えそうな距離感であるという場合は、例えば平方東小を選択できないのかっていうところを確認させていただきたいです。 あともう 1 点ですね。実施時期のスライドで計画の 1 点目、5 年目っていうのがあるんですけども、具体的に令和何年度が開始するタイミングか、今の段階での再編の時期っていうのを具体的に、5 年目とかだとちょっとわかりづらいので、年度で教えていただきたいと思います。
司 会	選択校の範囲と、再編は年度でいうと何年くらいかというところを確認したいということですのでよろしいですか。ありがとうございます。
新しい学校 づくり推進 室長	1 点目の指定校と選択校の近い学校というところでございますけれども、今再編検討協議会の方でいただいた意見をもとに方向性の素案ということで、このようなものがないのではないかと作成した段階なんですけれども、今回まさに意見聴取という場ですので、いただいたご意見は検討いたしまして、教育委員会その後通学区域審議会に諮問の方で、ご意見をふまえて検討の方は進めさせていただきたいと思います。あくまでまだ決定ではないということだけご理解いただければと思います。 2 点目の再編の時期についてですね、こちら先ほどの言葉と重複してしまっているところがありますが、今現在再編自体は決定しておらず、再編の方向性のご意見をいただいているという段階ですので、こちらの表で 5 年目といいますと令和 12 年度くらいになるのかなと思われます。あくまで今現在の再編

	が決定していないというところと今後通学区域審議会でも審議がどれだけ要するのかなど、非常に不確定なところが多いものですから、あくまで今現在の目安と捉えていただければと思います。
参 加 者 (新田住民)	再編はまだ決定していないんですか。平方北小が何校かに分散されるということは決まってるのかなと思ったんですけど、それ自体まだ決まってないんですか。
新しい学校 づくり推進 室長	再編検討協議会を行いましてそれらのご意見をもとに方向性の素案ということで先ほどお示しさせてもらった3つに分かれるという案をお示しはしたんですけど、再編自体は決まっている状態ではないです。ですのでその案をもとに選択できる学校がもうちょっとあった方がいいですとか、そのようなご意見をいただく場としての時間をいただいているところです。
参 加 者 (瓦葺住民)	尾山台小の近くに居住しております。今日伺ったのは、今まだ決まっていないですっていうお話もあったんですけど、この素案に対して提案や意見のある方はぜひどうぞということだったので、実は平方北小だけではなくて尾山台小と大石南中と3つの学校が名指しで挙げられていて、再編の対象にしていきますよって言われているんですね。尾山台小の地域でもずっと話し合いをしてきまして、ここがどういうふうになるかということが、すごく大きく影響してくるので、ぜひ意見を持っていきたいということで今日参加させていただきました。すごく説明の中で矛盾を感じるのは、ちっちゃい学校にもメリットもあるし、デメリットもあるということですよね。地域の保護者の方はなんて言ったかっていうと、以前教育委員会がとったアンケートでは、3分の2の方が、メリットの方が大きいと答えてる。にも関わらず、なぜデメリットが大きいのでっていうのか。先ほどの説明でいくとね、クラス替えができないからいじめなんかあったときに、その人たちが来れなくなってしまう、そういうことがあるからっていうお話なんですけれど。今上尾市の中でいじめ重大事件って新聞にこの前出ましたよね、2回ね。本当に大きな問題で、学校に来れなくなっちゃったという子たちが出てるという重大事件が7件も起こっているんですけども、小さい学校じゃないんですよ。いろいろ聞いてみると。むしろ大きい学校です。大きい学校で話を聞くと、職員全部が一緒になってあたるべきことができなくて少数の先生がやらざるを得なくなったりとかね。大きい学校の問題は、そういうふうに言われていて、尾山台小の地域の中でも話したときに、なんでちっちゃい学校じゃいけないのかって理由がわかりませんという声が大多数。先ほども懸念がいっぱいあるので、実際に学校廃校にして分かれるってことをやったら、子どもたちが大変なところに追い込まれるっていう感じがあるんです。今ある尾山台

	小なんかでは、僕たちの学校の自慢はって子どもに聞いたらね、いやうちの学校は人数少ないので低学年から高学年まで全部仲良しですっていうのが学校の一番の自慢として出てくるようなそういう学校です。それを何でなくさなきゃいけないのかっていうのがわからないっていうのがね、地域の声なんですよ。あくまでも決めた規模、学びに望ましい規模である 9 から 18 に合わないからって言ってるんだけど、18 学級を超えた学校については問題にしてないですよ。何で問題にならないんですか。それが 1 つ。学びに望ましいといってるかな、12 から 18 で、これ上尾市が勝手に決めた基準ですよ。文科省はそういうふうには言ってません。それを確かめてきました。なぜ小さい学校ではいけないのか、理由の 1 つである学級替えができないからってというのは、それが学校をなくすっていうことに繋がるほどの大きなことなんです。学校をなくすんですよ。尾山台の中でやっぱりものすごく問題になってるのは、学校をなくさなきゃっていうことを再編と言っていますが、もうなくすことを前提みたいな議論されていてね、さっき言ったように、他の学校から子どもを呼んでも 10 学級にはなるけど 12 学級、上尾市が言っている学びに望ましいというのかな、というのに当たらないからっていうんで、それはアウトして考えないことにしたわけですよ。学級替えができないから駄目だって言いながら、じゃあ他の学校からきて通学区域を見直してやったらどうですかは、10 学級にしかないから駄目ですって、それは蹴ったわけですよ。そうですよね。大石や何かの地域も含めて全体的に通学区域を見直すっていうことについて、なんだろう。もう一度言います。ちっちゃい学校ではなぜ駄目なんです。学校をなくすっていう大きい、子どもにとってもものすごく大きい、地域にとってもすごい大きいことをしなければならぬ程、その問題は大きいんです。もっと言いたいのは、地域でやっぱり問題になっているのはその学校をなくして、他の学校に行けば、子どもたちにとって何が良くなるかは、全然わからない。それが 1 番問題になってます。何が良くなるんですか、この素案で。子どもたちにとってどういう、例えばね、先生が沢山いてもっと丁寧にいろいろ教えてくれるとか、相談やなんかについてくれる体制が今よりもっと取れますよとか、そういうことができるっていうならわかりますよ。その保障が全然なくて、むしろ逆じゃないかって言われるような中で、子どもたちにとってどんないいことがあるんですか。そこをぜひ、聞かせいただきたい。地域の方はぜひそういうことを聞いてきてほしいと言っていました。
司 会	小さい学校をなくす程の理由がちゃんとあるのかということが聞きたいということです。
参 加 者	そうです。それが 1 つです。なくして、大きい学校に分けたら何が良くなる

(瓦葺住民)	んですか。 新しい学校 づくり推進 室長 教育委員会といたしましてはご説明でありました通り、メリットデメリットを比較した場合のデメリットの方が大きいという、クラス替えができないですとか切磋琢磨ができない、社会性を身に付けるためには一定規模の子どもの数が必要だというところの考えとして、統廃合も含めて検討が必要なほど大きな問題、解決をしなければならない課題だという認識であるというところが教育委員会としての考えでございます。 参 加 者 (瓦葺住民) 先ほどお話があったように、学校施設再編計画っていうんですか、それができたところで問題になってきたわけですね。適正規模とかいうことで。その前は小さい学校は全く問題になってなかったんですよね、さっき質問があった通り。小さい規模の学校のデメリット、クラス替えができないとかっていうデメリットがあるって言うてるのは、推進計画の中だけですか。親御さんからはそうでなくて、6割の方が、ちっちゃい方がメリット大きいよっていう声があったって聞いているんですけど、そのところはどうか。 司 会 学校施設更新計画のできる前は、適正規模とかの基準については問題なかったという認識でよかったかというところと、実際アンケートの中では6割くらいは小規模でもメリットを感じると、ちなみにそのアンケートというのは平方北小の保護者に聞いたアンケートでよろしいですか。ではそこについてお願いします。 新しい学校 づくり推進 室長 おっしゃった通り、アンケートについてデメリットが少ないというアンケート結果は当然認識しております。同様にそのアンケートの中で再編が必要ないですとか、再編によるメリットがないという回答が、再編する必要がないというご意見というのも極めて少なかったという認識もしております。 司 会 アンケートで小規模校のメリットを感じているところであるけれども、再編についてデメリットも感じているというご意見もまた少ないという状況であったというところですね。 新しい学校 づくり推進 室長 再編検討協議会の方におきましても、やはり再編は必要であるというようなところが、冒頭で先ほどご紹介をさせていただきましたけれども、現役保護者の方からも1クラス10人しかいない小規模では、あまりにも少なすぎるというようなご意見もあったところでございます。 司 会 補足ですが、小規模校についてというところなんですけども、1学級30人
--------	--

参 加 者 (小泉住民)	前後のクラスが1つしかないことと、1学級 10 人いかないこととというのは全然深刻さが違うという意見があったということです。 上尾市の小泉に住んでおります。元教員で平方北小学校にも勤務しておりました。大変懐かしくこの体育館に入った次第ですけれども、先ほど3番の中で説明の中で私ちょっと違和感を感じたんですけれども、再編検討協議会の9回の協議の中で、この学校規模の適正化が必要であるという結論に至ったというふうにおっしゃいましたよね、説明されました。私これはちょっと違うんじゃないかなと思うんです。この再編検討協議会、私も9回のうち、ほぼ傍聴しておりまして、実際には傍聴になるという意見が言えないので、皆さんの発言の様子、その空気を肌で感じたわけなんですけれども、この上尾市が最初に冒頭から説明しているこの12学級以上18学級以下というこの適正化に向けてという数字があって、再編検討協議会の委員さんの中にも、これはどこで決めてるんですか、この数字、これがもう決まりなんですか、大前提なんですかっていう質問も出てたんですよ。今、質問の方もおっしゃったように、これはもう上尾市独自で決めているものであってってことで、ここに国のどうのこうのってありましたけれども、決してこういう縛りはないということもわかっているものなんですよね。ところがそういった形でもう適正化に向けてだったんですよ。だから当然出てくるのは平方北小に他の学区から人数を増やすか、あるいは平方北小をなくして他の学校に行くか、もうそういう方向でしか進むしかないんじゃないかなっていうような私はすごく印象を受けましたし、実際に再編検討協議会に出ていた方も、例えば平方北小学校がこの規模で何とかこの地域でいろんな良さがあるこの学校を残す方法、つまり学校を再編するとかって以前にね、そういう方法は取れないだろうかっていう観点がなくなってきたんですよ。なくなってきた。確かにお母さん方の中にはいらっしゃいました発言なさってる方が、10人のクラスではね、大変なんですよってというふうにおっしゃってました。私も聞きました。それから教員の方が、校務分掌が大変なんですよ、ひとクラスで修学旅行に連れて行くんですよっていう、聞きました。だけれども、そういう教員と子どもの日頃の実践やふれあい、あるいは地域の保護者と子どもたちの触れ合い、もっと言えば、学童なんかも、私平方北小の学童、本当に適正規模だと思うんです。今学童ものすごい数ですよ。人数が子どもたち。その中で平方北小の学童はちょうどいいなあと思って見ているんですね、端から。そういう実際にそこに関わってる方たちの代表が15人で構成されてるんですけど決してその代表の意見ではないですよ。今いじめがあると難しいとか、クラス替えができないっていうのもあると思いますが、何かそのところの話し合いがね、本当に掘り下げられてないんですよ。結局はだんだんとこの適正規模にいかに合わせていくかっていう方向に残念
-------------------------	--

	ながらなっていてしまっていて、方向性の素案というのが出ている。だから私今やっとここで意見が言えると思ったんです、傍聴をずっと繰り返して。言いたかったんですよ。校務分掌のことも言いたいこともまだあるんですけど他の方も発言があると思いますので、私の思いは今説明された結論がそういう結論になりましたというのは違和感がありますっていうところです。
司 会	適正規模化が必要であるという話で書いてあるところについてどうですかというご質問ですか。
参 加 者 (小泉住民)	そうです。再編検討協議会の実態の中身です。あと初めから適正規模化ありきのように進められていたんじゃないかという私の疑問です。
司 会	ではその2点ですね。
新しい学校 づくり推進 室長	まず適正規模についてですけど、基本計画の際にアンケートを取りまして、12学級から18学級、各学年2クラスから3クラスが望ましいという市民の方の意見を多くいただき決定したところでございます。 再編検討協議会の方で適正規模化が必要である、それありきで話が進んでいったのではないかといいるところでございますけれども、1回から9回まで行う中でそちらのアンケートの結果ですとか情報を素直にお出しして再編検討協議会委員の皆様にお考えというかご意見をいただいたところ、適正規模化が必要であるという結論に至っているというところでございますので、特別導いたというかそのような認識はないといったところでございます。
司 会	その認識があるかといいますとこちらとしても適正規模より小さい学校のメリットデメリットについて協議を図っているというところですので、その形で進めているという認識はないということですね。実際に傍聴に来られていない方もホームページで議事録を公開しておりますので、どういった議論がされていたのかご確認いただければと思います。
参 加 者 (さいたま市在住)	さいたま市の大宮から来ました。私この平方地域でも教員として勤めていまして、そしてまた今現在、上尾市の年金者組合というところの代表をしまして、上尾市に関わっているものなんですけども、そういう点でまち作りの観点からですね、私はこの計画を見直してほしいと思うんですよ。先ほども話がありましたけども、今後は平方北小をはじめとして、尾山台小、大石南中学校へ広がっていくということが話されましたけれども、やっぱり学校は、子どもたちはもとより地域の拠点だろうと思います。今日も校庭でスポ

司 会	ーツ少年団が活動してますけども、そういう意味で、高齢者や住民にとっても、台風や水害のときの避難場所、防災の拠点になってるわけですよ。そういうところがなくなると、学校は地域の活動や文化の拠点の場所だろうというふうに思います。そういう意味でいくとやっぱり学校がなくなるということでは、地域の衰退に繋がるということは明確だろうというふうに思います。そして周りのですね、市町村を見てみますとですね、例えば大宮なんですけれども、隣の大宮はですね、全国一で転入率が高いわけですよ、人口増ですよ。それで 3000 人規模の小中一貫校が作られようとしたけど、住民運動、そしてまた入札が不調でストップしています。そしてまた七里地域に新たに学校を作ってますよ。それだけ隣、例えば埼京線で西大宮駅に行きましたけれども、平方の隣ですよ、どんどん人口が増えています。それを前提としますと、やっぱり将来の計画像が、やっぱりこの今までの計画では見えてこないということで、やっぱりそういう意味では、もう 1 つ言いますと、上尾バイパスがありますけれども、上尾バイパスが 2 層になってですね、自動車専用道路が広がってくるんですよ。日産 UD トラックですね、あそこまでですね、自動車専用道路が東京の方からずっと伸びてきます。工事も進んでいます。そういう意味からいきますとね、この地域はですね、やっぱり人口減を前提としていますけれども、今後の見通しはどういうふうに立っているのか、その辺も考えていただきたい。ですからそういう意味からいうとまち作りの観点っていうのがどういうふうに検討されたのかということと一つお伺いしたいと思います。 それと 2 つ目にはですね、周りの市町村、桶川、北本、伊奈町では、学校統廃合の問題は問題として取り上げてないんです。やっぱり現状を見てみますとですね、人口減から言いますと、もっと厳しい状況に上尾よりあるんだろうという思います。ところが、そういうところでも、やっぱり学校は残していこうということで統廃合の検討が進んでないんですよ。そういう意味で言うと、周りの市町村の行政がどうなってるか検討されたのかどうか、お聞きしたいというふうに思います。それで現実に上尾で統廃合があるので、北本に引っ越された方もいらっしゃるんですよ。そういう意味では今後の計画について見直しを求めるとともに、その 2 点、まち作りの観点があったのかどうか、そしてまた周りの市町村との連携があったのかどうか、その点お聞きしたいと思います。 ありがとうございます。確認なんですけれど、まち作りの観점에서地域の拠点として学校が必要であるという観点があったかというところと、西大宮、平方の隣のところで人数が増えている、上尾バイパスが通ることによって、もしかして平方の地区のあたりも住民が増えるということのもちゃんと考えたのかというところ、近隣で北本市等では統廃合は検討していないというところ
--	--

新しい学校 づくり推進 室長	で近隣市の状況を見てそこは検討したのかというこの2点でよろしいですか。
司 会	人口についてですが、教育委員会といたしましては今後5年間単学級が続くというような住民基本台帳を基に、少しでも早く子どもたちに望ましい学校規模の適正化に向けて進めていくというところでございますので、あくまでも教育環境の改善を重点に置いて検討を進めていったところでございます。2点目の他市の事例につきましては、学校規模の適正化のための統廃合についての調査を県内61市町村に実施いたしました。統廃合した事例ということで、北本市が令和3年4月に栄小学校が石戸小学校に編入した事例ですとかそういったところは調査研究していったところでございます。
参 加 者 (上野住民)	補足なんですけれども、先ほど北本市栄小の編入につきましては第5回再編検討協議会にて事例としてご紹介させていただきましたので、もし気になる方いらっしゃいましたら第5回の議事録の確認をお願いいたします。北本市のホームページにも協議の様子が議事録等で掲載されていますので気になる方はそちらのご確認をお願いいたします。 私は4点で発言したいと思います。 1つは適正規模、12学級以上18学級以下のことについてと、それから学校と地域、廃校による弊害、それから4番目にやっぱり大局を見誤って欲しくないっていうこの4点で発言いたします。よろしいでしょうか。 私は子どもが3人いまして、平方東小とそれから平方小にそれぞれ子どもたちが通いました。適正規模については、上尾市が決めたことであって、これから発展していかなくちゃいけない上尾市なわけです。その中で、国の省令などでは決められていない。それをやっぱり上尾市の基準だけで地域にとっての学校を廃校にしていく、それはやっぱり認められないな、納得できないなというふうに思っております。 それで私は子どもたちを育てながらずっと働いてきましたけれど、それぞれの子どもが学校に通っているところで必ずPTAの役員をやってきました。その中で、学校が地域にとってやっぱりなくてはならないコミュニティの核だというふうに思ってます。地域のイベントだとか防災の拠点とか、学校を中心に地域が手を取り合って、子どもの成長を見守ってきたなっていうふうに私は思っています。それなので、やっぱり行事であるとか、地域の学習であるとか、環境整備とか、そういうところについても積極的に繋がってきました。これからも学校を中心に地域が繋がって発展していくことを望んでいます。 それから3番目の廃校による弊害なんですけれど、非常に大きいと思いま

司 会	す。まず通学距離がとても長くなります。というのは、やっぱり通学距離が長くなるっていうことは、年間を通じて危険な目に遭うということが非常に多くなると思います。特に特別支援学級の子どもたちにとっては、かなり負担が大きくなるし、その特別支援学級に通わせている保護者の迎えも遠くなりますし、やっぱり仕事をしているっていう方も多いだろう。そういう中では、とても保護者の負担が増えると思います。 それから学校規模の大きいところでの問題なんですけれど、学校の名前をちょっとあげますけど、大石小学校です。保健室がいつも満員です。その方のお孫さんは非常に強い生理痛がある。いつも青ざめている。そういう中で、ベッドに横になるようなこともできず返される。保健室から返されるっていう状況が日常的に続いてるっていうんですね。これってすごく命に関わるようなことなんです。そういうことが学校の規模の大きいところで問題になっていて、それに手を打たないっていう方が私は問題だろうというふうに思いますし、大規模校でのいじめだとか暴力だとか不登校っていうのはもう私が言うまでもなく、非常に年々大きくなっていますよね。大規模校こそ問題がたくさんある。困難になっている。それを冷静に判断して行くべきだっていうふうに思います。小さい学校こそ、1人1人が輝いて伸びる教育が実現できるんですよ。私は北海道の田舎町で育ちました。同級生も10人以下でした。でも困ってません。今でも同級生のことを思い浮かべることができます。それからやっぱり教育の目的は何なのかっていうことです。やっぱり人格の完成を目指してるんですよ。どんな学校でも。子どもの数を問題にして、やっぱり教育の大局を見失って欲しくないなっていうふうに思います。大きく言えば、現在の子どもたちが将来の国の方向を決めるぐらい大きなことなんです。教育っていうのは。そういうことからいっても、子どもの成長とか発達を見守るっていうのは大人の仕事です。小規模だとか、少人数とかそういうことで廃校にしていくような、そういう過ちは犯して欲しくない、そういうふうに思います。以上です。 ありがとうございます。主に最初に4点とおっしゃっていただいた通り、1点目としては適正規模についてということですね。国の基準がないにも関わらずそういった形で廃校にしているのかということですね。地域のコミュニティとして先ほどの方もおっしゃっていたかと思うんですが、そこのところちゃんと大事して欲しいということですね。あと統廃合による影響として通学距離が長くなるといったことについてもちゃんと検討して欲しい、検討していたのかというところ。4つ目として学校規模が大きい学校、12～18学級を超える学校については問題にはならないのかといった形でよろしかったでしょうか。では回答お願いします。
------------	---

新しい学校 づくり推進 室長	1点目の適正規模の基準についてですけれども、先ほども触れさせていただきましたが、学校施設更新計画でのアンケートと、国の決まりではないんですけど、学校教育基本法施行規則におきまして小中学校については12学級から18学級を標準として定めている、但し書きとしまして地域の事情、特別な事情がある場合はこの限りではないという但し書きは入っているところではございますけれども、これらと先ほどのアンケート結果を参考に上尾市として適正規模校は12から18としたところです。
参 加 者 (瓦葺住民)	今言っているのは文科省が言っている標準規模ですよ。適正とは言っていないですよ。
新しい学校 づくり推進 室長	標準と定めていますというところですね。これを参考にさせていただいたということでございます。 続きまして地域のコミュニティの場として非常に重要であるというところはこれまでもいろいろご意見をいただいているところでございますけれども、繰り返しになりますけど、私共が考えていることといたしましてはある程度の児童数、学校規模をもって児童が社会に出ていく際に社会性を身につけたり、切磋琢磨することができる環境を用意することが最優先だと考えております。当然地域のコミュニティですとか、もしも再編となった場合の跡地の利用につきましては市民の方ですとか市全体として検討していくことになりますけど、子どもたちのことを第一に考えての計画ということでご理解していただければと思います。 続きまして、通学距離ですね。通学距離は平均するとだいたい1.5km以内くらいになるかと思います。それが遠いとなるのかどうなのかというところは今後通学区域審議会ですとか教育委員会の意見も踏まえて最終的に決定していくことになりますので、ご意見として承らせていただければと思います。 あと学校規模が大きいところはどうするのかというところですが、ご意見にございました保健室がいっぱいだというのは、また別問題として、何かしら手を打たないといけないのかなと考えているところでございますけれども、例としていただいた大石小学校につきましても今後児童数が減っていったんだんだん準適正規模校、今27クラス、26クラス程度かと思うんですけど、5～6年度には20クラス程度になると想定されているところでございますので、大規模校の学校再編をするべきかどうなのかというのは、大規模校の現状を踏まえながら慎重に検討していこうかというところでございます。
司 会	補足なんですけれども、適正規模についてどのように定めたかに関しましては、一番詳しく書かれているのが上尾市学校施設更新計画基本計画と呼ばれ

参 加 者 (東町住民)	る文書になりまして、こちらの方で3つの方向性を立てております。その方向性2の中で、適正規模に関する記載がございます。そちらに経緯等が詳しく書いてありますので、本日資料として用意がなく大変恐縮ですが、もし気になる方いらっしゃいましたらご確認いただければと思います。 統廃合の影響による通学距離につきましては今回の再編検討協議会でもかなり多く協議されておりまして、第3回～第6回におきまして通学区域の案の中で、だいたいどの辺りに住んでいて、どれくらいの距離になるのかを資料のほうで詳細を記載しておりますので、気になる場合はこちらの方をご覧くださいいただければと思います。 学校規模につきましても 18 学級以上の学校につきまして、人口減少に伴い児童数が減少していくデータについても再編検討協議会で協議しておりまして、そこにつきましても詳細が気になる方につきましては、ホームページに掲載しておりますのでご確認いただければと思います。 東町に住んでいます。職場が地頭方にあるあらぐさ福祉会というところで障害者の相談支援をやっている関係で、児童から成人、地域の小・中学校のお子さん、あらゆるところから情報が入ってきて相談を受けているという立場で、ちょっとお話をしたいと思います。自分の子どもはもう 20 年近く前に東町小でお世話になったんですけど、そのときは、もう 800 人に迫るので、うちの子が2年生だった時はプレハブ校舎だったんですよ。今言っても誰も信じてくれないんですけど。そのプレハブ校舎も当時の校長先生が、10 年も経てばなくなるわよってたんですけど、とんでもない話で、今どんどん家が建っていきまして減らないんですね。今年も 720～30 人いるのかな。ただそこは学童にしてしまったので校舎が足りないんですよ。ぎゅうぎゅうになっていると。大規模の弊害ってそこら辺ですよ。校舎が足らなくて本当は 35 人ぐらいでやれそうだなというところが 40 人になってしまったり、必然的に仕事の仕事なので、障害のお子さんが今すごく増えていて、東町小は今年確か 20 人を超えて支援学級があるか。3 クラスないし 4 クラス。一番多いところは確か 5 クラスぐらいありますよね。そちらの方が詳しいと思いますけれども。だからそういうふう到大規模なところってなってしまうという一つの弊害があって、私自身も大規模には反対で、ちょっとこの計画そのものに無理があるなっていうのは、なぜ特別支援学級のことは触れられてないのか。以前、何年か前の公聴会、平方公民館でやった公聴会でも同じ発言しましたが、そのときはまだ基本計画みたいな特別支援学級の子の教育について 1 ページか 2 ページくらいありましたよね。今回は全く載ってない。なぜ載せないのか。平方北小だって小規模とはいえ、やっぱりそこそこいるわけですよ、支援学級は。そうですね。尾山台小も少ないけどもいます。多いところはもう 30 人に迫る勢いで支援学級があるわけです。そちらがそ
-------------------------	--

ういう情報を出してくれないから調べたんですけども、この5年で、上尾市全体で100人増えてます。支援学級に通うお子さんがね。これは支援学級に通っているお子さんだけですから通常級にはもっといますから、通常級のお子さんだって外に飛び出していってしまうお子さんとか、これはちょっと衝撃の話になるんですけど、オムツが取れない子が通常級に今います。1人ではありません。というような状況の中で、より一層やっぱり少人数で手厚い教育を行わないとそういうお子さんたちが取り残されていくっていうふうになっていくわけですよ。先生1人しかいないわけですから。そこでね、お漏らししちゃったのなんのって言ってたら、もう誰が面倒見るのかと。そういうお子さんは支援級に行かされるわけですよ。面倒見切れないから。今そんなふうになってるわけですね。それは先生の方が知ってるはずなので、そこを抜きにして、規模だけのことで、あっちだこっちだっていうのはやっぱりちょっと無理なんじゃないんですか。今、例えば学習塾だって何だって少人数で、個別でやってるっていうことを売りにしてるわけじゃないんですか。だからやっぱり少人数の教育効果はすごくあるわけですよ。今障害の子が通う放課後等デイサービスっていう放課後の療育支援というのがありますけども、そこは1日最大10人です。そこに職員5人ぐらいつくんですよ。だからみんな落ち着いてるんですよ。学童保育所と併用してる子もいるんですけど、学童はもう押し合いへし合いでパニックだらけなんですけども、やっぱりそっちに行くと落ち着くと、なぜかって言えば手厚いから。そういう手厚い教育をどう保障していくかっていうのは全然この検討から見えてこないんですね。数字だけで話がされているので、やっぱりそこはもっと本当にきちんと考えて欲しいなっていうことと、ちなみに今年は支援学級に行っている子が340人ですね、5年前は240人です。やっぱり100人増えてるんですよ。やっぱりそれだけ大変になってきてるっていうところなので、それを1つの学校でまとめて1クラスじゃない、1校で20人だ30人だって支援学級を抱えてやっていけると私は全然思えないので、そういうお子さんが特別支援学校の高等部に来ると、大変なんですよ。だから特別支援学校もパンクしていますよ、上尾の特別支援学校、かしの木特別支援学校、教室はないし、校舎はないしという状況なので、やっぱりそういうふうに子どもが減ってもそういう困難を抱えたお子さんは増える一方なので、学校を再編するとかそういうことではなくて、一つの学校でどれぐらい手厚くやれるかという考え方ができないんですか。そこをやっぱり考えるのが教育委員会のお仕事だと思います。ということもありますので、やっぱりちょっと無理があると。支援学級の保護者にやっぱり遠くなる人もいますよとか違う学校に行くといろんな問題ありますよとか、個別に1人1人きちっと話を聞いて欲しいんです。この話知らない保護者なんてたくさんいますから、平方北小に限らず。そういった1人1人に寄り添うっていうのはそもそも教育基本

	法で一番大切なところだと素人の私が思ってますので、そういったところからいろんなことを検討していただいた上でどうするのかっていうのを決めてほしいんです。障害者権利条約というのがあるんですけどもそこに書いてありますが、私達抜きに私達のことをきめないでください。さっきどなたかおっしゃいましたけど、子どもの権利条約も同じですね。子どもたちに学校がなくなるのか、続くのかっていうところをきちんとやっぱり隠さないで聞いて、そうしないと大人に嘘つかれたってことになりますから、そこら辺も急がないで丁寧に時間をかけてやってほしいですね。そうしないとやっぱりやっちゃったらおしまいになりますから。 子どものことと言えば保育課になりますけども、団地の保育所を全部潰しましたけども、潰してどうなったかっていうと、保育所企業や民間がどんどんできてますけど、結局ね、0、1、2はどこにも入れません。空きはないです。0、1、2歳は。空きは民間も含めて全然ない。どっかで1箇所あったか、だから、保育所も足りないんですよ。足りないのに潰してて、これで子育てしたい人が来るかっていったら来ませんよ。やっぱりそういうふうに関心あるところから考えて、やっぱりこっちもきちんと充実させる、近くに学校があるというふうにしないと、これから子どもたちが増えないで、年寄りばかりになるりますので、その辺は障害児の関係で言えば、計画にそもそも載っていないのは、理解ができません。包み隠さず全部載せて、300人近い支援が必要なお子さんがいるっていうことも前提の上で進めていかないと本当にやっていけないと思いますのでよろしくお願いします。
司 会	ありがとうございます。主に特別支援学級を含めて考えてくださいといったご意見だったかと思います。
新しい学校 づくり推進 室長	特別支援学級については、学校施設更新計画基本計画には記載させていただいているところですが、特別支援学級につきましては学級編制や教員配置の考え方が通常の学級とは異なること、また全ての小中学校に設置することを基本としていることから、学校規模にかかわらず、必要な学級数を確保していくという考えのもと進めております。 もう1点、周知について、こういう再編の方向になっているのを知らない方がいるのではないかと、ご意見があったかと思いますが、周知につきましては、在校生につきましてはさくら連絡網という連絡ツールを用いております。未就学児保護者の方についてはそのようなツールがございませんので、個別に通知をして開催の案内はしたところでございます。以上です。
司 会	大変申し訳ございませんが、お時間となりましたので、次の質問で最後にさせていただきますと思います。

参 加 者 (上野住民)	時間を過ぎて、再質問で申し訳ないんですけど、私先ほど質問したことで答えていただけてないんですよ。 1つ目は、なぜ地域説明会を行われなかったんですかということです。再編検討協議会やりながら並行してやればいいじゃないですか。その方がやっぱりこの参加できない方は、いろんな話聞けていいわけなんです。なぜできなかったっていうのが、回答はありませんでした。 2つ目には、以前も単学級がありましたけど、そのときと今回の状況はどう違うんですかっていう質問したんですけど、それは何か答えていません。 それからもう一つ付け加えますと、上尾市は子どもの意見表明権、これ認めないんですか。決まってからやりますなんていうのは、おかしいと思います。上尾市の市政が問われると思います。これは意見ですけどね、この2つのことについてはどこかで回答してほしいですね。きちんと回答いただけてませんので、以上です。
司 会	回答が必要な点は、説明会をなぜやらなかったのかについてと、今までも単学級があったのに対応をしていなかったことについてでしょうか。
参 加 者 (上野住民)	状況がどう違うのかという点です。
司 会	ちなみになんですけれども、何年ごろのどの学校の話をおっしゃっているのでしょうか。
参 加 者 (上野住民)	平方東小と上平北小です。単学級ありました。
司 会	それは何年ごろのお話ですか。
参 加 者 (上野住民)	1980年か90年か、教育委員会でわかっていると思いますが。私地域の方にね、前もそういう単学級があったじゃないの、あのときやらないで、なんで今回やるのっていう、そういうことを聞かれて、私も答えられなくて、そういうことでお聞きしてるんで、そのときと状況がどう違うのかってことを教えていただきたいと思います。
司 会	1980年ごろの平方東小と上平北小の状況が今と何が違うのかということと、地域説明会のことですね。
新しい学校	地域説明会がなぜ行われなかったのかについては、市側の考えになってしま

づくり推進 室長	いますが、市として改めてご説明する準備が整ったのが、今の段階であるということになります。過去に単学級があったのにその時と何が違うのかというところでございますけれども、手前どもの学校施設更新計画として基準を明確に定めたのが令和5年度でございましたので、そこから計画をスタートしたということが実態でございます。
司 会	申し訳ございませんが、お時間になってしまいました。
参 加 者 (瓦葺住民)	まだ答えていないのが、先ほどの質問で特別支援学級がものすごく大規模になっていて、大きな困難がでるのにどうなんですかという話を、計画では学校規模に関わらず特別支援学級については、手当てしていくと決まっていますという話ですよ。そうじゃなくて、大きくなるってことについてどうなんですか聞いてるのでそれに対してちゃんと答えて欲しいです。
司 会	ちなみに補足でお伺いしたいのですけれども、特別支援学級が大規模になるってというのはクラス数が増えるということでもいいんですか。1つの学校の中に特別支援級のクラスが5つ6つできるということが大変なのではないかということでしょうか。
参 加 者 (東町住民)	私の子どもが上尾中に行ったときは31人いて、支援学級ですよ。5クラス、実質6クラスあったのかな。子どもに交流とかあったのかって聞いたら1回もない。人数が多いのにそんなことできるかって言われてしまったってところで、やっぱり規模が大きくなると、そういったことがおざなりになるというが、小さければ行事も一緒にやるっていうふうなところで、今上尾南高校に上尾特別支援学校の分校というのがあるんですね、校舎お借りしても増えすぎちゃって、そこは行事も一緒にやってるし部活動もやってるし、本当にインクルーシブだなというふうに思ったんですけども、ある東部の小学校は30人超えていてもうめちゃくちゃですよ。階段下で大騒ぎしてる子は授業中にいっぱいいますし、教頭先生だって見回りで、電話しても繋がらないってということもしょっちゅうありますし、そういうふうな被害はいっぱい出てくるわけですよ。そうするとやっぱり全部が理解してるわけじゃないから、何でああいう子がいるんだとか、近所からもなんだ、あれはってというのが、あるわけですよそういったことが。やっぱりそういったことを一つ一つ解決していくために何が必要なのか、統廃合でそれが解決するんだったらいいですけど、絶対それはないですから。それはもう自信を持って、確信を持って言えますので。やっぱり丁寧に見ていくには小さな規模で静かにやれるようなところがないと、そういう子どもたちはなかなか落ち着いていけないっていうのは、実際のところではありますよね。8人で先生1人で

	すよね。9人以上になれば2クラス3クラスと分けていくわけですけど、やっぱり発達障害系の困難なお子さんがたくさんいるので、どうしても外に出てってしまうとか45分座ってられないとか、寝転がるとか唾を吐くとかいろいろあるわけですよ。通常級にもそういうお子さんたくさんいます。そういうお子さんをきちっと見るのに35人40人ってクラスでいいのかっていうところを、やっぱり現場ときちんと議論をしていただかないと、残念ながらちょっと厄介払いで特別支援学級に行くとか、特別支援学校に戻されたっていう親御さんもいるんですね。でもおとなしくなってきたらいいんですけども、やっぱり支援学級や通級がそういった場合に位置づけされてしまってるっていうこと自体も問題ですし、そういう議論はここでは全然出てこないですよ。ただやっぱりそれはまずいと思いますよ。その規模だけでそれであなただこち行け、あっち行けって。子どものことに1人1人に寄り添ってないじゃないですか、全然。そこは少ない人数でなるべく手厚い配置を、先生今いないんでしょうから、手厚い配置で、1人1人に寄り添うようなことをしていかなければ、それは無理ですよ。大規模になっている小学校を月曜日にでも見に行っていたいただければどれぐらい大変な事になってるかっていうのは私が言わなくたって分かっていると思うんですけども。だからそこら辺をやっぱりちゃんと一つ一つ解決して行って、その上で統廃合でもいいんだとかっていうことになるんであればいいんですけど、そこは全然抜け落ちているので、ちゃんとしてほしいなということをお願いしたいと思います。通常級だっていうのは本当にさっき言ったようにオムツ取れてない子もいるわけですから、やっぱりそこらをきちんと見ていかないといけないんじゃないかと思いますが。だからそこをよく考えていただきたいなと思いますので、支援学級の子がやっぱりたくさん増えて行ってクラスも増えていくと教室も足らなくなるし、先生も足らなくなるしっていうのもあるわけですから、支援学級の大規模化というのも問題になりますから。先生いないでしょそんなに実際、大規模になったって。支援学級だって先生1人でやれないじゃないですか。そうやって排泄ができない子もいれば、ご飯食べられない子もいるし。野菜を見れば逃げ出しちゃう子がいるわけですから。それを先生1人でやれるのかっていうところですよ。小規模化して、ちょっと空いた先生が手伝いに入るとかしないと私は厳しいと思いますので、5年後、10年後本当に大丈夫なのかこの国はというふうに思っています。時間を過ぎてしまい申し訳ございません。
司 会	特別支援学級も大規模になっているところがあるという中で、学校再編の話に関しては、特別支援学級をおざなりにするわけではないですが、学校施設更新計画基本計画にも記載しておりますが、通常級を基本とした検討になっているところですね。

参 加 者 (瓦葺住民)	これは平方北小学校の素案なんですよ。なぜ検討の中に触れられてないんですかということです。
参 加 者 (東町住民)	特別支援学校のこと何も書いてないですよ。
司 会	再編によって特別支援学級にも影響があるということもちゃんと検討して欲しいということです。
参 加 者 (東町住民)	問題も含めて出してもらわないと、どうするのかっていうことで。当事者の親御さんたちは何も載っていないのでは、うちの子はそういう子だから外されたのかなと思ってしまいます。それでそういう相談が私のところへ来るわけです。
新しい学校 づくり推進 室長	今回素案をお示しして様々なご意見をいただくという場ですので、大変貴重なご意見ですし、当然おざなりにしてはいけないことですので参考にさせていただき、今後検討させていただければと思います。
司 会	誠に申し訳ございませんが、お時間となりましたので、質疑応答を終了させていただきます。 以上をもちまして平方北小学校再編に係る説明会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。

5.2 第2回議事録

日 時	令和8年7月25日（土）13：30～15：00
場 所	平方北小学校体育館
参加人数	19人
意見・要望等	
参 加 者 (小敷谷東部住民)	私こういうところに初めて参加しております。小敷谷東部にいます。子供が4人おりまして4人ともこの卒業生です。中身の質問ではないんですけども、この資料についてちょっと確認をしたいわけでありまして、現役保護者と未就学児の保護者に対する説明会が7月12日、14日に開かれたと書いてありますけども、これそれぞれ何人ぐらいの方が参加されたのかちょっと教えていただきたいです。
司 会	12日と14日それぞれの人数ですね。お願いします。
新しい学校 づくり推進 室長	7月12日は18名、7月14日が8名、あわせまして26名の方がご参加いただいております。
参 加 者 (上野住民)	子供3人いて、うち1人はこの学校に通っておりました。途中で引っ越ししましたんでね。結局この説明会というのは、なんかもう再編検討協議会というもので平方北小はなくせる。それを前提のもとに何か説明をしてるっていう感じがしてならないんですけども、私は学校をなくすことについては、様々なデメリットがあるので強く反対です。 私が平方北小をなくすることに、反対する理由は主に3つです。1つはですね、やっぱり資料にもあったように通学環境と児童生徒の影響の負担が増えるっていうことをね、すごく心配しています。通学距離が長くなることで、こういう気候ですから、大変な体力の低下だとか、健康の問題とか、また放課後の自由な時間も制限されると思うし、家庭学習の時間も減少する恐れがあると思うふうに考えます。安全性への懸念、これも資料にありましたけれども、新たな通学路で交通事故のリスクだとか、より遠方に通うためにね、悪天候時、猛暑日の酷暑日のダメージが懸念されます。さらに資料の中に通学のためのスクールバスですか、これを検討するなんて書いてありましたけれども、これは別途検討するとありましたけれども、これ導入する場合はね、結局やっぱりバス会社の調整とか、運行管理費用の確保だとかね、停留所までの送り迎えとか、結局保護者や教員の負担も増えるんじゃないかなって思うんですよ。それが1点目です。

それから2点目は、地域のコミュニティへの影響がこれすごく大きいと思うんです。今回の再編検討協議会の結果の概要を見てると、結局国はこういうふうに言ってます。学校の規模はこれが適正だと。従って、それに基づいてこのようにしたいと、こういうふうに言ってるんですけども、地域のコミュニティへの影響っていうのはね、一切出てこないんですよ。これが大きいと思います。学校はね地域の中心の存在だというふうに思います。運動会だとか、災害時の避難場所だとか、それから住民同士ですね、交流の拠点になって、そういうコミュニティの核としてね、学校というのは機能してきたと思うんですよ。学校がなくなることで、地域の結束が弱まる可能性だってないとは言えないと思います。それから、学校がなくなるということで、定住人口の減少も懸念されます。まち作りがやっぱり狂ってくると思うんです。子育て世代が学校の近い地域へ転居してしまう。この地域に引っ越してくることを回避する、敬遠する。そういうね、地域の過疎化を衰退に拍車をかけるんじゃないかと。そういう要因にもなるというふうに私は思います。これが2点目です。

3点目。平方北小廃校にした場合に、校舎の活用問題どうするのか。民間に売り飛ばすのか。災害時の避難場所はどうなるのか。本当に心配です。長男が通ってた頃は、この平方北小学校には学童保育はなかったです。うちも共働きですから、学童に預けようと思ったら、平方学童保育所まで歩いて放課後は行っていました。しかし、今日の皆さんや地域の皆さんのご尽力で、平方北小に新たに学童ができました。本当に良かったというふうに思います。せっかく平方北小に学童保育作ったのにこれもなくしてしまうのか。平方北小がなくなれば当然そうなりますよね。ですから学校の規模を適正化するっていう名のもとにですね、小規模な学校を廃校にしようっていうのは、やっぱり国はこういうふうに言ってますっていうガイドラインが示されましたけど、公共施設を縮小させるっていうね、国の施策にやっぱり政策、根っこがあるんじゃないかなというふうに思います市役所にとってみれば、市役所の仕事ってのはやっぱり住民の福祉を仕事する地方自治体ですから当然だと思うんですけども、そういう点から考えたらこれはね、本末転倒じゃないかと私は思います。数年前になりますけれども、平方小学校の統廃合が検討されて住民説明会が開かれました。私も行きました。反対意見が圧倒的でした。これ以来、市は説明会そのものを開かなくなってしまうました。ようやく今日この場が設けられたわけですけども、結局、再編検討協議会なるものの、その結論が説明されただけで、様々な意見を、広範な人たちに意見を求めるっていう場ではないというふうに思います。市民の意見も聞かないでね、統廃合を進めようという姿勢っていうのはね、もう薄ら薄ら見えるわけですよ。そういう姿勢は全く納得できないし、許されないことだというふうに思います。

	去年市長選挙がありましたけど、市長選挙でもね、市長さんは学校統廃合を進めるとは一言も言っていないわけですよ。公約にないことを進めようというのは、私はおかしいと思います。むしろ政策が求められる、対策が求められてるのは、大規模な学校こそもっと対策をする必要があるんじゃないかなというふうに思います。ここの学校に通っていたうちの息子ですけども、今長野県の人口 1400 人の村の子供の山村留学の指導員をやってます。ここの小学校、孫が今 5 人おりますけれども、うち 2 人が小学生なんですけれども、1 クラス 10 人です。児童数が少ないから問題なんじゃなくて、少ないからこそね、1 人 1 人に行き届いた教育が実践されてる、そういうふうに聞いています。この息子の村では教育の問題だけではなくて、若い人たちの定住だとか、UターンやIターンの若者への支援が手厚くやられてるっていうのが、地元の新聞なんかで紹介されていて私もびっくりしました。その村で結婚したら、半年後も婚姻が続いてれば 10 万円のお祝い金、第 1 子が生まれたら 10 万円のお祝い金、第 2 子 30 万円、第 3 子は 1 人について 50 万円の出産祝い金、学童保育は無料です。空き家を大家さんとタイアップして、自治体が修繕して貸し出す。本当に移住者が増えてる、そういう村だそうです。この平方地区でもですね、高齢化や空き家問題とか、若い世代の流出は深刻だと思います。学校なくすということよりも、若い人たちが定着して子育てできる施策の充実を図るべきじゃないか、そちらの方が本筋ではないかということをお願いして、私の意見としたいと思います。
司 会	ありがとうございます。意見の方をまとめさせていただきますと 5 点ほどになるかなと思ひまして、まず通学環境への影響、安全性への懸念ということで、他の学校へ通うことによって負担が増えてしまうと、そういった形で通学距離が伸びたり、通学区域が変わることによって通学の安全性や、バスを導入したとしてもコストや先生たちの負担も増えてしまうというところがあり、そういうところが大変なのではないかというご意見が 1 点と、地域のコミュニティの関係のところですね。学校自体が地域の中心である、コミュニティの核であるということで、もしこの学校がなくなってしまうことで地域の衰退が起きないのかというところが心配である、実際他の自治体ですとかIターンやUターンなど施策をとって定住促進を促しているといったところが 2 点目、もし再編となった場合は校舎の利用はどうなるのか、学童の建物も壊してしまうのか。そういったところが 3 点目、4 点目としては平方小の統廃合の説明会からこれまで説明会がなかったこと、最後 5 点目が大規模な学校も対策が必要なのではないか、この 5 つでよろしかったでしょうか。
参 加 者 (平方住民)	概ねそうだと思います。録音していると思うのでそれも含めて起こしてきちんと協議していただきたいです。

司 会	議事録等を後日ホームページに公開させていただきますので、その際に回答できるものについては回答させていただきます。他にご意見はございますでしょうか。
参 加 者 (中妻住民)	中妻に住んでおりますが、以前は第二団地にいまして、平方北小が学区だったということもあってこちらに参加させていただきました。質問が1つあります。なぜ小さい学校では駄目なのか。今の説明だと、切磋琢磨できないとか、多様な人間性が築かれないっていうことが大きな理由になっています。それが国の基準だと。でも国はあくまで基準であって、全然これは拘束性を持たないものですよね。切磋琢磨、人間関係というのは、子供自身が感じることです。周りのことなんかどうでも。小さいコミュニティの中でも、隣の相手に負けたくないとかね、幼なじみと一緒に帰るあの子には負けたくない。子供ってそういうところで、すごく切磋琢磨を育んでると思うんです。人間関係も、やっぱり小さいところで、いろいろ話し合いすることで、それはいろんな関係を築ける、そういう力を子供って持っていると思うので、なぜ小さい学校じゃ駄目なのか、私はもう小学校1年生が15人これすごいじゃないって逆にね、思います。こんなに目が行き届く学校って他になかなかないんですよ。だから、そういうところもやっぱり大事にしてほしいという意見です。 もう1つは、この中に1つも子供たちがどう思ってるかが出てないんですね。子供に説明はしてないんです。先生と親ですよ。でも、再編検討協議会の委員の中にこの在学している児童の親と、それから未就学児の親を含んでいますよね。その参加者のお子さんたちは、いったいこの問題をどう思っているのか。素直にやっぱりここに通っている子供たちがいったいどう思っているのかっていうことを聞きたいので、もしそういうご意見があったら教えてくださいなと思います。
司 会	ありがとうございます。1点目のご質問としてはなぜ小さい学校ではいけないのかということで、小さい規模でも人間関係も築くことができるし、切磋琢磨もできるのではないかとということです。国の基準については拘束性を持たないものであって、12学級以下だから再編するのはどうなのかということ。また、子供たちはどう思っているのか意見を確認したいということですね。再編検討協議会でも親御さんが委員としていらっしゃるんですけど、平方北小学校の子供に直接聞いていないのか、聞いていない場合はその理由について聞きたいということで、よろしいでしょうか。
新しい学校 づくり推進	まず、小さい学校ではなぜだめなのかというところでございますけど、説明の資料にございましたのと、ご意見いただいた中にも重複するところがござ

室長	いますが、やはりメリット、デメリットを比較した場合、デメリットの方が大きいという判断は教育委員会の方でしているというところがございます。 それを踏まえまして、再編検討協議会でも同じご意見を踏まえましてというところと、あとクラスについてなんですけれども学校施設更新計画の策案の際に保護者、児童生徒等にアンケートを取ったところ、1学年2～3クラスを望む声が多かったというところも踏まえまして、適正規模校の基準を決めたという経緯がございます。 また、子供の意見につきましては、再編検討協議会の中でも取るか取らないかという議論があったのですが、再編が決まってからですとか一定の方針が出た時点で取った方がいいという意見も出たのですが、あくまで再編するかは大人が判断して子供に責任を押し付けるような形にしたいくないというご意見がございましたので、現在児童等に直接的な意見聴取というのは、再編に関しては行っておりません。
司 会	補足ですが、再編検討協議会でも子供への意見聴取については協議を行っておりまして、第4回～第5回にかけて協議しているところがございます。先ほど申し上げた通り、再編することについてどう思うかを、直接子供に聞くことによって、最終的に子供に判断を委ねるのは良くないのではないかと思います。ご意見をいただいたことをふまえて判断した次第でございます。ちなみに子供たちがどう思っているのかを聞きたいというのは再編なってもいいのか、悪いのかを聞いた方がいいということではよろしいでしょうか。
参 加 者 (中妻住民)	再編と言っても、この学校がなくなるかどうかですよね。そうすると、ここに通ってる子供にとってはすごい大問題だと思うんですよ。だから率直にそのことについて、子供たちはどう思うのかっていうこと、子供の本音を聞いてもらいたいなというふうに思ったんです。
司 会	そのような事を聞いたことによって、子供たちが心理的に影響を受けてしまうのではないかとというのが、再編検討協議会の中で出たところです。実際にどのような話があったについては再編検討協議会の議事録にございますので、ご確認いただければと思います。
参 加 者 (三井住宅住民)	さいたま市の中学校の教員だったので、前の学校再編計画のときから興味関心があったんですけど、先ほどのお話があったように、こういう会が久しぶりに開かれたということで参加させていただきました。先ほどの方もおっしゃったと思うんですけども、子供の心理学的な負担から言うと、ある学校だけがなくなって、他の学校に吸収されるっていう統廃合のやり方はあまりよくないという話を聞いています。例えば、大石南小学校と平方北小学校で新

しい学校名を作る。つまり、先ほどもありましたけども、ある地域だけじゃなくて吸収合併されるっていうのは、受ける側としては、要するになくなった学校の生徒を引き受けた。行った側の生徒からすると、行かされたっていう残るわけですね。新しい学校を作ろうというやりの方が、妥当ではないかと、そういう検討をされたのかというのが1点目です。

それから先ほども意見が出されていましたが、やはり基本的にはまち作りの観点がすごく大きいと思うんです。経緯の説明で、結局この平方北小や大石南小ができたのは、団地の住民が非常に急速に転入されて、子供の受け入れ場所として作った。それが今の団地の様子を見ると、急激に児童生徒がいるような家庭の人口が減少しているためにこういう事態が起きてるわけですね。結局、原市や尾山台も全く同じ状況だと思うんです。なので、例えば公団住宅に若い世代を引き受けるような政策を打って、要するに上尾市と団地が提携して若い世代を呼び込む、先ほど、長野でもそういう取り組みをされてるということだったと思うんですけども、そういう政策なしにはとても要するに教育委員会でなかなか大変だと思うんですよね。私も学校関係者だったので、行政に強いことが言えなくて、要するにどちらかという対応だけが迫られているというふうに思うんです。でも本来から言えば、まち作りの観点で、こういうことにならないようにちゃんと政策を打てよというふうに思った方がいいんじゃないかなと思うんですけども、これは質問というかどうかというふうに考えてるか、先ほど本当は地方自治っていうのは、やはりあのその地域住民の立場をちゃんと考えて、いろいろな政策をするべきだということなので、そういう説明なしに、しょうがないでしょうこういうふうになっちゃったんだからこうしてよっていうちょっとそういうのを考えます。

あともう1つなんですけど、私さいたま市に行って、いつも不思議だなと思うのは、さいたま市にもう何十年も1学級1クラスでそのままの学校ってあるんですよ、間宮西小と野田小とか。あれ何十年間単学級ですが、それでもこのデメリットだから統合しようという意見、また廃校にしようと思わないんです。近隣も隣の町ですからねよくご存知だと思うんですけど、結局しようと思ってもできないんですね。あそこは。なので、そのままです。逆に人口が急増すると、今なかなか建設が上手くいかず入札が不調らしいんですけど、3600人の小学校をつくる。もう行政的に言えば教育委員会何考えてんだろうかと私なんか思ってるんですけども、そういう対応に教育委員会が逆に、何か責められちゃってっていうか迫られて仕方なくこれでもやっていきますみたいな声だけ大きく張り上げてるようなそういう学校計画が立てられてるんですね。やはりその辺はよく考えた方がいいと思うんです。行田市に比べればまだ上尾は。他市のこと言うとあれなんで、とにかくそういう先ほど言った質問は、まず子供の心理学的な要素で質問が1つです。あと2つ

	は、今言ったまち作りという観点で、その辺はどう検討されてるか、おそらくこの再編検討協議会ではそういう議題は上ってないと思うんですけど、その辺はどうお考えなのかなと思います。
司 会	ありがとうございます。1点目としては1つの学校がなくなって他の学校で受け入れるとなると、子供たちへの負担が大きいので、吸収という形ではなくて新しい学校を作ろうと、ちなみにそれは、校舎はそのままで、名前を変えるということですか。
参 加 者 (三井住宅住民)	いや、やり方はいろいろです。全国の例を見ればよく分かります。
司 会	新しく校舎を造るか、もしくは他の学校の校舎に入って名前を変えるといったやり方があると思うがそういった検討はしたのかというのが1点目と、2点目はまち作りの観点からで、団地の人数が減少していく中で、市から公団ヘリノベーション等の提案をし、人数を増やすといったことはできないのかといったご質問でしょうか。
参 加 者 (三井住宅住民)	ごめんなさい。今のは市長の考えについてです。先ほども市長はこういうことを言っていない、なのにどんどん進めるけど、本当からいったら、市長がリードしてやるべきなんです。さっき言った行田なんか悪い方向で、もう一斉に全部なくして1つにまとめちゃうみたいな乱暴なことを言う市長もいるので。
司 会	市長の方で再編とかそういうことも進めていくべきということですかね。
参 加 者 (三井住宅住民)	だから、その辺の市長とのすり合わせ。結局こういう、これを決めるのは教育委員会じゃないんですよ。市長との教育委員会、総合教育会議。そこで最終決定するんですよね、議会でもなくて。 総合教育会議のメンバーはどう考えてるか全く出てこない。だってそこが最終判断するんですよね、こういう住民説明会じゃなくて。
司 会	最終的な判断をするのは総合教育会議だけでもそういう話がでてきてないというのが2点目ですね。3点目としては、さいたま市の例を挙げていただきましたが、その辺りについてもきちんと検討しているのかといったご意見でよろしいでしょうか。
参 加 者	すいません。ちょっと運営の仕方について言いたいんです。今のやりとりと

(小泉住民)	かも含めて、私達が意見を言ったときに司会の方が要点をまとめてくださいますよね。それは私時間が勿体ないと思うんです。1人でも多くの方が発言しやすいように答えてくださって質問してるんですから、すぐ答えてください。
司 会	先程もございましたが、論点に違いがあってはきちんとした回答ができませんので。
参 加 者 (小泉住民)	現にそこに座ってらっしゃる方は、質問を直に聞いているわけですからそれについてどうですかというふうに聞いて、答えが質問者の方と齟齬があったら、そこはそこでまた質問者との関係で訂正すればいいわけですから、司会者の方が要点をまとめていただく時間が私は勿体ないと思うんです。
新しい学校 づくり推進 室長	1点目の新しい学校、吸収合併ではなくて場所はともあれ新しい学校名にするといったイメージかと思うんですけど、今現在は学校規模の適正化ということで学校施設更新計画で単学級が5年以上続いた学校を再編検討の対象校とするという、言葉はあれですけど、課題校としては平方北小学校が課題校に該当する学校になっておりますので、これまでの再編検討協議会の中で新しい学校というようなニュアンスの協議は行っていないのが実態です。
参 加 者 (三井住宅住民)	私の質問の意味は、そういう心理学的な要素も加味して、先ほども言いましたが、子供がここだけがなくなって、疎外された感じにならないように、学校名も新しくして、新しい学校をつくるんだぞというような方向性の協議はしてないのかっていう質問です。
新しい学校 づくり推進 室長	しておりません。今現在は。 また、UR 中心のお話かと思いますが、新しい子育て世帯を受け入れる施策ということで、市としては定住促進ということで数年前から政策としては行っているところでございます。もちろん人口が増えるということは教育委員会としても大変喜ばしいことではございますけど、教育現場といたしましては単学級ではデメリットが大きいと、教育的な観点に主観を置いて今の実情を速やかに改善していきたいという思いから取り組んでいるところでございます。
参 加 者 (地頭方住民)	この問題、非常に前から関心持ってたんですが、このテキストの中に書かれていますね、子供たちの学びに望ましい学校規模と書かれていますけど、これ非常にね、巧みな言い方なんです。これは誰がこれを言ってるのか。子供たちの学びに望ましい学校規模と国が言ってるっていうふうにな、皆さん説明さ

れてますけど、国のどこの省が言っているんですか。これは総務省が言っているんですよ。総務省が、小学校の統廃合を進めるときに適正規模は 12 学級から 18 学級という言い方してるんです。具体的には文科省は一言も言っていないんですよ。子供たちの学びに望ましい学校規模、これ文科省は 12 学級から 18 学級なんて言っていますか。これは質問だけれども、今日答えなくていいです。後で答えてください。文科省はこんなこと一言も言っていないですからね。これは総務省が学校を統廃合するときに望ましいのは 12 学級から 18 学級以下というふうに言ってるんですよ。それをすり替えて子供たちの学びに望ましい学校規模ってこれは国が言ってるような印象で書かれている。これは既にこの時点で間違っている、この説明が間違ってる。これ指摘しておきます。それからですね、学校規模の問題なんだけど、これ国際基準、WHO だとか、そこで盛んに言ってるのは、小学校の規模は 100 人以下の規模だと。これはもう国際連合なんかでも前から言ってるんですよ。例えばご存知の方もいらっしゃるかと思うんだけど、シュタイナー教育ってあります。これはもう本当数人の子供たちを対象にして徹底的に教育をやっていくっていう、こういう考えですよ。だから WHO 含め国際基準というのは 100 人以下。これが適正規模だということを言ってるっていうこと。これをぜひ承知おきください。この基準ということで子供たちの学び望ましい学校規模っていうこんなこと言ってるけどこんなことはね、国が言ってるように間違ったことを私達に言っている、これをまず指摘しておきたいと思います。

それからですね、その次のページでクラス替えができない、これがデメリットと言ってますけれども、先ほどちょっと追加したいんですけど、私同級生が長野県出身で校長先生をやった人がいまして、こういう上尾の現状を話したら、長野県でこんな適正規模なんかやったらみんなもう潰れちゃうよと、小さい学校がいっぱいあるんですよ。先ほども言われてましたけどさいたま市でもね、人数が少なくても本当にきちんと教育を子供たちのためを持って教育をやってるところが多いんですよ。それでちょっと話が進みますが、クラス替えができないのでデメリットだと言ってますけれども、もうこれ 3 クラスだっていじめがいっぱい出たら全然足りないじゃないですか。毎年毎年その人をね、クラス替えすれば解決するっていうような安易な考え方だと私は思います。この問題についてはもう徹底的に話し合うということ、関係者が、それで解決していくっていうこと、クラス替えでは決して解決しないということ。実はこの学校は、ウェルビーイングな教育ということで中島晴美校長先生が素晴らしい教育を実践されましたよね。私も実はそういうことをやってらっしゃるってことで、この学校に何回か見学に来ました。中島先生ともお話をしました。その中で、先生は子供、教職員、保護者、地域の全ての幸福ウェルビーイングを大切にする学校経営したい。子供が安心し

	て学びに挑戦できる環境作り、教職員の働き方改革と心理的安全性の向上が科学的ウェルビーイングな研究とその知見を学校運営に取り入れるという方針でね、この学校運営をされたと。 その結果どうなったか。学校が楽しいと答える児童が 98%、あと学力の向上、そして保健室利用者の減少、あと教職員の働きがいの向上、教職員が他の学校に行きたいという希望を出す人がいないと、そういうところまでね、中島先生はこの学校で実践されたんですよ。少人数のところですね。それで私は、さっきも言いましたように、レジュメだとかそういうのを聞いたときに対策としてクラス替えがそういうことが先生どうなんですかって聞きました。そしたら私と全く考え同じでした。クラス替えで解決はできないと。徹底的に話し合いをするべきだと、これは中島晴美先生がね、明言しましたよ。だから、ここで言ってるこのページでもクラス替えが全部または1部の学年でできない、これがデメリットだって嘘っぱちですよ。全然科学的根拠がないと。徹底的に話し合って解決する。じゃあ長野県もそういう少ない人数の学級数の少ないところでいじめが起こったとする、クラス替えやって解決できるんですか、できないじゃないですか。だからそれをどうするか、関係者がちゃんと話し合いを持っていくっていう。こういうことをやる必要があるということで、私はそういう小規模の学校をなくすっていうことはね、これ総務省の統廃合の立場から見れば、それは適正かもしれないけれども、子供たちの教育を考えたときにはそれは全く違う。このことはね、地域づくり、先ほども出てますけどまち作りも含めてね、本当にこれは私達の望むやり方ではないということをこれ指摘しておきたいと思います。以上です。
司 会	ありがとうございます。他にご意見ございますか。
参 加 者 (上野住民)	理由になっているデメリットのことなんですけども、この切磋琢磨っていうのをスマホ検索してみますと、仲間やライバル同士が互いに励まし合い競い合いながら、共にスキルや人間性を高めて努力し続けるという意味ですとあるんですよ。切磋琢磨というのは、競争心が主ですよ。1年生から隣の子と切磋琢磨しながらというのは、教育の本質からも違ってると思うんですよ。やっぱり小学校1年生は本当に学校に来て楽しい学校、先生がいつも自分を見てくれる学校、質問をすれば何でも答えてくれる先生がいるとか、友達が10人で少ないかと言われたらでもそうじゃないですよ。30人いても、私自分のこと考えても10人以上その人のことを深く知ってことはまず難しいですよ。友達同士の交流も本当に深い友達になるには十分、10人いれば。人としての友達としての交流もできると思うんですよ。だから、少人数だから駄目だっていうのは、それは本当に大人や国や皆さん何とか国に従って学校を減らしたい、先生も減らしたい、教育の予算も減らしたいという

	思いを実現するためのやっぱり子供を犠牲にしてるような後付けだと思うんですね。そういう意味では小規模校だから廃校するっていうのは、全然子供の立場にも立ってないし教職員の立場にも立ってないと思うんですね。今日説明会のチラシを見ましたら、教職員の説明はたったの 25 分なんです。学校を作るのは先生と生徒ですよ。先生がたった 25 分の説明しか聞かない、聞いてない。それっておかしいと思うんですね。学校を作る先生の気持ち意見、そういうのを本当にたくさん交流しながら、やるのがいい学校を作る目的だと思うんですね。本当にこれは子供や楽しい学校にする先生たちの思いからではなくて、上から押し付けられたその国の施策だと思うし、上尾市長も 4 年前の市長選でしたよね、反対意見が多かったもんですから、凍結しますって言いましたよね。凍結するってことは、考えて違う方向性でこう決めていくということですけども、でも今やってることは、1 つ 1 つ潰していく方向ですよ。小さい学校から 1 つずつなくしていく。前の 12 校を廃校していくという方針と全く変えてないと思うんです。そういう意味でも本当にこの統廃合、平方北小をなくすことは市民として反対です。もう 1 つ質問です。この 25 分間やった教職員の職員会議でどういう意見が出たか。聞かせてください。以上です。
新しい学校 づくり推進 室長	教職員の方は説明の内容といたしましてはご説明させていただいたスライドと概ね同じものをご説明させていただきました。その場で出たご意見といたしましては、だいたいいつぐらいの時期なのか、時間的にどのくらいかかるのかというのを気にされていたので、それについてお答えして、その意見を踏まえて今回のスライドでは、ご説明の段階で暫定ではございますけど、予定をいれさせてもらったりと、改良させていただいたというところでございますので、特別反対ですとかそのようなご意見はいただいていないところでございます。
司 会	他にご意見ございますか。
参 加 者 (第二団地住民)	私、1 番上の子供が大学生で、今真ん中が高校生で、1 番下の子が平方東小の 6 年生なんですけど、平方東小は 17 年目なんですね。平方東小はご存知のように、1 番上の大学生の子が入ったときは全部で 1 クラスでした。2 人目のときもほとんどが 1 クラスで、3 人目の今小 6 の子が入ったぐらいに学区編成もあって 2 クラスになって、今標準に近い 11 か 12 ぐらいに確かっていると思います。子供が通う中で、この小規模校のメリットデメリットのデメリットっていうのは、ただ実際に会話した感じからしても全く当てはまらないなっていうのを言いたいと思います。他の方も言っているようにクラス替えができないから、この人間関係の固定化とか、いじめの問題が解決で

	きないっていうのは、これは全然違うって1クラスだった長男のときも問題のあるクラスはあったし、いろんないじめ的なことも含めてトラブルがありました。2クラスになった3人目のときにそれがないかといえ、そんなことはありません。2クラスで標準的な規模になったって、実際には学級崩壊的なことがあったり、いじめ的な人間関係トラブルも同じようにあります。ですからそれが1クラス6学級の小規模校のデメリットっていうのは、やっぱりおかしいというか、実態にも合わないっていうのは、ここは本当に強く言いたいと思います。そうしないと、何か小規模校が、こういうデメリットがあるんですっていうふうに市民も保護者も地域の人も考えてしまうってこと自体がミスリードっていうか、そういうふうに実際に17年間、平方東小に通わせて子供が行ってって感じるっていうか実態なんですよそれが。ですからここで言う、小規模校が駄目で適正規模の学校がいいっていう理由のデメリットは、やっぱり理由にならないっていうのは、1つ強く言いたいと思います。 もう1つ質問も兼ねてなんですけど、この再編協議会が設置される前も含めて、その後も含めて、保護者に平方北小、要するに適正規模にしてほしいや、1クラスで困るとか、ぜひ2クラス以上にしてほしいっていうようなそういうことの声が実際出たのかどうか、何かアンケートとかで聞いてこの1クラスで困ってる、変えて欲しいっていう声を聞いたことがあるのかっていうのを、再編協議会設置前も含めて教えていただきたいんですね。なぜかという、息子が小学校に入ってサッカー少年団に入って、平方北小もグラウンドで使わせていただいていたんですけど、その平方北小の保護者さんも結構いたんですけども、1度もそういう声を聞いたことがないんですよ。平方北小が1クラスだから困るとか、もっと多クラスにして切磋琢磨してほしいとか、中にはいるのかもしれませんが、それが多数だったとは到底思えないんですよ。ですから、そういう声をこの間この再編協議会を設置する前と後も含めてどれだけ聞いてきてるのかっていう、できれば地域の方の意見もどれだけ聞いているのかっていうのを聞かせてください。
新しい学校 づくり推進 室長	ご質問の件なんですけれども、平方北小学校の保護者等に対して再編検討協議会をやるにあたりアンケート調査を実施しております。詳細についてはホームページ等で公開させていただいておりますが、現在の1学年1クラスで、メリットを感じるか、デメリットを感じるかというご質問で、基本的には特にメリットを感じるという方に6割程度の方が回答していたかと記憶しております。その反面といいますか、その後の同じ設問の中に学校規模適正化にした場合のメリット、期待する効果という設問も同じく設けておまして、その中で、学校再編で得られるメリットは少ない、特にないとご回答された方は保護者で10%、教員で8%程度となっており、期待することとし

司 会	てはクラス替えができること、人間関係に配慮したクラス編成ができるが、保護者ですと6割、教員ですと約9割の方がご回答するなど何かしら期待している面もあるというようなアンケート結果を得ているところでございます。
参 加 者 (第二団地住民)	他にご意見はございますでしょうか。 私前県議もしていたので、ちょうど昨日国会にも行ってきてこの問題を国ともやり取りをしてきたのでそういうこともお伝えしながら質問していきたいと思います。 今日は平方北小の再編という名の廃校についての決定をぜひ撤回してほしいくて、私は今日この場に来ました。今夫が目の前にいるので私そういう子供たちを1クラスで見えてきて、先生たちが全部の子供たちわかるんですよ名前。こんな素晴らしい学校はないなと。私とっても嬉しかったです。平方東小に入れて。だから学級はとっても大事だなと思うんですけども。この間何度か再編検討協議会を傍聴させていただいて、その中で再編検討協議委員の皆さんから統廃合ありきではないですよ。何度も何度もそういう質問出るんですよ。大規模どうするんですか、これだって適正規模じゃないじゃないですか、こういうことも出た。でもそれはほとんど聞かれないまま、ああそうですねって。再編検討協議会委員の責任に結局されてしまいますよね、この結論を出した。私これ本当におかしいというふうに思ってるんですが、なぜこの結論を出す前に、むしろ再編検討協議会を作る前に、地域への説明、保護者への説明、そして何よりも影響を受ける子供たちへの説明をしなかったのかということをもまず1つ伺います。 それから、いくつかデメリットの話もあったんですけども、私すぐそのファミマに行ったときに、子供に声かけられたんです。こういう仕事もしてるので、はって見つけて、「僕たちの学校なくなるんですか」ってずいぶん前ですよ。小学校6年生の子だったので多分もう卒業してると思いますが。「どうして?」「なくされるんですかね。」「なくすことはないよ。小学校実際はどいうなの。何年生?」「6年生です。すごく丁寧に教えてもらってるから、すごくいいので。」本当私この声を聞いていないってすごく瑕疵があると思ってます。子供たちに聞いてなんぼと思ったり、子供たちにこの決定の権限がないと思ってるのが、私は大人の傲慢だなと思います。子供の権利条約があります。批准してます。子供たちに影響あるものは全て子供たちの意見を聞いて、なるほど子供たちにとってはわからなかったけどこういうメリットがあるんだなっていうことも分かると思います。そしてこのデメリット、大人が作っているフィクションのこれデメリット、子供たちはどう思うでしょうか。いやいいよ、これでいいよって多分その小学校6年生の子は言ったでし

	ようね。私は大人が勝手に考えたデメリットを押しつけることこそまずい、だからこそ子供たちの心理的負担っていうふうに言ったんじゃないでしょうか、ショックを受けさせるって。私これおかしいと思います。 聞きたいのがもう2つ目ですが、学童が今どこも満杯です。平方北小学校の子供たちが、他の学校に行くことで、学童への対応、つまり他の施設にいっぱい影響が出るんですが、学童についてはどう思っているかが1つ。 それから、今後ますます部分的によっては学校が満杯マンモス校に上尾もなると思います。イオンの向かい側に大きなマンションができると伺っています。もしかしたら学校作らなきゃいけないかもしれないということも含めて非常に不安になるんですけれども、大規模への対応をどうするのか伺います。 それから避難所としての機能がここにはあります。学校開放も行っています。そこへの影響についてどう考えているのかを伺います。これが4つ目ですよね。 それから3ヶ所4ヶ所、子供たちを転校させるという中身ですけれども、子供たちへの心理的な影響をどう考えてるかも伺います。 今日説明があって、5年がかりでこれやるということなので、私はね、この廃校をやめるなら今だと思います。ぜひ、廃校ありきではなくこれを撤回して、この小規模の良さを今からでも活かしていくという考えについて伺います。以上です。
新しい学校 づくり推進 室長	学校再編の撤回というところでございますけれども、私共の基本計画の策定から実施計画、再編検討協議会と進んできておりまして、教育委員会の考えといたしましてはご説明させていただいている再編に係る方向性（素案）のものを進めていく所存ではございます。その中身につきましては今回様々なご意見をいただく場としてこの機会を設けておりますので、そのようなご意見があったというのは教育委員会なり、審査する場にはご意見として当然提言はさせていただきます。 また、学童につきましては統廃合によって仮に平方北小がなくなる場合であって、他の学校に行く場合につきましても当然学校だけでなく学童も1つのパッケージとしてご用意しなければ、するのが市の責任と考えておりますので、そちらにつきましては十分対応して参りたいと考えているところでございます。同様に避難所につきましても重複の話になってしまいますけれども、防災部局との協議検討も踏まえて確保していくことになると思います。
司 会	他にご質問等ございますでしょうか。
参 加 者	ごめんなさいね。2つぐらいしかなかったんで、1、2でしょ。3つ目が大規

(第二団地住民)	模化への対応、それから4つ目が避難所、それから学校開放でこれかなり使われているんですね。そこへの対応をどう考えてるのか。それから子供たちが転校することへの心理的影響、さらに5年間かかるというところで立ち止まるべき、これは答えましたね。最初にね、結果についてね、ちょっとこれじゃ全然答えになってないですけど、意見を聞いて、考え直すということをしてほしいということが私の要望です。
新しい学校 づくり推進 室長	失礼しました。まず大規模化への対応ですね。今大石小学校ですと26学級ですとか27学級という規模になっているところでございますけど、こちらの学校につきましても児童の減少に伴って令和12年度くらいには20学級21学級の準適正規模校となっていくことが想定されています。こちらの推移ですとか実際大規模校での問題を検討しながらということになってしまいますが、児童の減少を見据えて進めていければと考えております。先ほど上尾小学校の大規模集合住宅の件ですけれども、今まさに私共も懸念というか動向を注視しているところでございますので、具体的なところは、まだ今後となってしまうんですけども、注視しながら何年くらいに何人くらい入って来るのかをまずは把握しながら対応の方を具体的に考えていくところでございます。 学校開放の件ですが、使っていただいているのはありがたいというか有効に使っていただいているかと思うんですけど、あくまで子供たちの教育のところの観点を主観に置いておりますので、子供たち優先というところで考えているところでございます。あと今後再編に伴って転校する児童がいるかもしれないというところですが、他市の事例ですと事前に相手校との交流を設けるという事例もございますので、その辺を研究して心理的負担を少しでも軽減できればと考えているところでございます。 避難所の方は、もしもこの学校がなくなっても建物自体はすぐ使えなくなるというところではないというところと、今後どのように活用していくか、跡地利用にも関わってくるかと思うんですけど、具体的には防災部局と協議しながら土地なり現建物の使用を図って地域の皆様の不安を少しでも解消できるような方向で進めていきたいと考えております。
司 会	他にご質問等ございますでしょうか。
参 加 者 (丸山団地住民)	平方北小学校再編検討協議会の委員でもありました。今までお話を聞いていてすごく思ったのは、すごく応援をされている気持ちになりますけど、本当に責任の一端を感じてます。再編検討協議会の委員として加わっていただいたので、こういう今までのお話を聞いて、小規模の学校についてこういう意見もあるんだっていうことを全然知らない状態で参加をしていましたので、

アンケートの中では、本当に小規模の学校についてのメリットっていうこともたくさん述べられていたんで、そういうこともあるんじゃないんですかっていう程度のことしか私言えなかったんですけれども、本当にいろんな地区のことですとか、そういった情報が全然足りない状態でお話をさせていただいてたかなっていうふうにも思いますし、さっきこの2番ですかね、平方北小学校再編検討協議会の中で私たち子供たちの学びに望ましい学校規模が協議されたかっていうと、協議はされてないんじゃないかなと思っています。アンケート結果っていうのを説明されて、メリット、デメリットっていうのがある中で在校生の保護者からも小規模といっても限度があるよってというようなお話もいただいたりとか、そういう中で、そういうこともあるのかなあという形なので、いろんな豊かな話し合いというのは、再編協議会の中ではされていなかったなっていうふうに感じています。ちょっと私ずっとグチグチ言わせていただいていたんですけれども、全体としての決を出していくっていう中で、そこに私は異をずっと唱えるってことはなく、責任の一端を感じているような状態です。ただお話の中で、適正数っていうのをずっと続けていけば、ここら辺に学校はもうなくなりますよねっていうことは申し上げたと思います。子供の数、なかなか増えないですし、これで適正数ってずっとやっていけば、その町にいったいこの学校数ってどうなっちゃうんだろうっていうそういう気持ちはすごくありました。あともう1つは、もう2回目ぐらいの再編協議会のときから申し上げてたんですけれども、なんで教育委員会だけなのかなあっていうのは常に疑問でした。やっぱり地域の資源を語り合うのに、教育委員会だけっておかしいですよ。私途中からバスっていうことがね、選べるのであれば丸山団地の子供たちが、例えば平方小だったりとか、この酷暑の中歩いていくってことを考えたら低学年の子供たちが本当に死んじゃうよって思ってまして、小敷谷の方からバスっていう意見が出たときに、バスっていうのがあるのであれば、考え直してもいいのかなあと、例えば丸山団地このままだったら、子育て世代が住まない地域になっちゃうな。高齢化がどんどん進んじゃうな。そうなったときに、この地区はバスがあるから大丈夫なんですっていうようなことがあるのであれば、それだったら考えなくもないかなっていうそんなような気持ちでした。そのときにバスっていう条件が通るのであれば考えてもいいかなっていうことを申し上げたときに、ちょっとそれができないって言ったときには、また後戻りしてもいいんじゃないかっていう意見を実は個別にいただいたりとかしまして。それでこれは進んでいったかなと思ってますその結果っていうか再編検討協議会についてのその他のところで、夏場などの児童の安全性を考えた通学バスについては、学校再編の検討とは切り離し、市全体の小・中学校で検討することが望ましいっていうふうに書かれているので、私この場には、それを検討できるような機関っていうか、そういう方がいらっしゃるの

	かなあっていうちょっとそういう期待もあって伺いました。学校のことを話すのに、教育委員会だけって責任重すぎませんか。市の財産のことを語るんだったら、もっと市のいろんな方が来るべきなんじゃないのかなって思うんですけど、いかがでしょうか。
新しい学校 づくり推進 室長	現状といたしましては学校のことということで、子供たちの学びに観点を置いているということで教育委員会のメンバーのみというところが実情でございます。今後資産として、もしも跡地ですとかそういう話になりましたら避難所の関係部署ですとか等々交えての検討が当然必要になるかと思っております。現段階では教育委員会のみとなっております。
参 加 者 (丸山団地住民)	そうなりますとそういう方も含めての説明会が更にあるということですのでよろしいのでしょうか。教育委員会だけでなく他の機関の方も含めて説明会がまた更にあるというふうに考えてよろしいのでしょうか。
新しい学校 づくり推進 室長	今時点での統廃合につきましてはある、ないという明言はできないんですが、例えば跡地利用ですとか避難所の関係ですとかになれば避難所の防災部局のものに出席を求める可能性はあるのかなと考えております。今現在明言というかある、ないといった明確な回答はできないところです。
参 加 者 (地頭方住民)	今の答弁聞いていて跡地跡地って言っているんだけど、跡地っていうことはこれを壊すっていう前提での発言じゃないですか。 これ壊しちゃったらどうすんのこれ、避難所もできないしさ。例えばね、他のところでやってるところはこの学校の施設をね、社会教育施設に回すとかね、そうやって地域の人たちと一緒にやるっていうことをやってるところが多いわけですよ。その先から跡地跡地って言っちゃってるとなんかもう決まってるのかもう全部壊しちゃうのかっていうのはさ、そういう印象になっちゃうんだよね。それちょっと発言ちょっと注意した方がいいし、本当にその発言の通りなんであればね、これまたこの地域全体の問題にもなってきますよ。そこちょっと指摘しておきます。
新しい学校 づくり推進 室長	すみません。おっしゃる通り跡地というのは飛躍というか施設の有効活用も含めてというところでございます。
参 加 者 (平方住民)	廃校が前提ってことではないですか。もう説明会やらないっていうのは。そういうのがうまくないんじゃないですか、このやり方そのものがね、検討協議会で決めたものを押しつけるっていうのは、非常にまずいやり方だという

新しい学校 づくり推進 室長	ふうに思いますよ。今の答弁聞いても廃校ありきっていうふうにしか受け取れないですよ。本当に残念な会だと思いますよ。 今回方針の素案というところで意見聴取というところで場を設けさせていただきました。先ほどの説明にもあったかと思いますが、今回いただいたご意見をふまえて、また通学区域審議会での協議を終えましたら、再編案を作成させていただく予定です。再編案ができましたら、また説明会の方はさせていただきます。
参 加 者 (上野住民)	午前中出て、最後に要望というか意見なんですけど、再編案の説明会ってありますよね。ようやくできたということで、きちんとね、やってほしいと思います。というのは今日聞いて、答えてもらえてないのも結構あるんですよ。教育委員会以外の部署でね、やっぱり答えてほしいようなこともいっぱいあるんですよ。ですから、今日いっぱい出た意見も参考にね、スタッフを増やして、答えられるようなそういうね、上尾市の全体のことが答えられるような体制で、私市長さんに出てほしいですよ。市長さんどういう考えでこれやっているんですか。私午前中に平方北小がなくなることによって単学級の学校がもしできたら、そっちの方も増やしますよって該当、要するに平方小は今4学年が単学級ですからね。これ全部単学級になったら平方小はもう該当になりますよっていう、そういう話をされたので、いや、これは本当に大変なことだという、どんどん小さい学校なくなっちゃう、そういう計画が変わらない限り広がるんですよ、どんどん。そういう心配もあります。それからもう1つ大石南中の再編検討協議会、これ始める前に、先ほども意見ありましたが地域説明会やってからやってくださいよ。そこの20人ぐらいで決めちゃって。はい決まりましたじゃ困りますから、きちんとした地域説明会をやることを要望します。必ずやってください。それは推進室の方でできると思いますのでよろしくお願いします。
司 会	他にご意見ございますか。
参 加 者 (第二団地住民)	先ほど質問で1個漏れていたものともう1個質問したいんですけども、漏れてたのはなぜ再編検討協議会の前に地域説明会を行わなかったのかというところ。保護者や子供たち、地域への説明をしっかり今やってるような形で、やったらですね、これだけ意見が出るわけですよ。これ、なぜしなかったのか。これから大石南の方もやるようですけども、全くそういうことを地域にも保護者にも子供に聞かずにやるっていうのは、非常に市のやり方として瑕疵があると思うので、なぜやらなかったのか1点と、もう1点は今、この学級規模だから学級数が云々言ってるけれども、少人数学級を進めてい

新しい学校 づくり推進 室長	けば、それこそ 40 人いたら 2 クラスになりますよ。どんどん学級数むしろを増やさなきゃいけない状況になったときに、おそらく教室が足りないという状況が絶対に生まれると思います。プレハブを作ることにもなるかもしれませんが。だから少人数学級を進めていく上での学級数が、実際に増えていくということを念頭に置きながら、こういう計画を考えてるのかどうか伺います。 1 点目の再編検討協議会をやる前に説明会の方がしばらく行われていなかったというご質問かと思いますが、基本計画を作成する段階で各説明会を行わせていただき、その基本計画の中で基準として小学校ですと単学級が 5 年以上続くことが見込まれる場合という定義を定めましたので、それに基づきまして再編検討協議会を行い、再編検討協議会の意見を吸い上げたうえでこの場をという考えで進めていったということでございまして、逆に再編検討協議会をする前ですとご説明する内容が少ないという状況があったと判断していたということでございます。 少人数学級によって学校の教室数が不足してしまうのではないかというご懸念につきましては、検討させていただいて適切に対応して参りたいと考えているところでございます。
司 会	それではお時間となりましたので質疑応答を終了させていただきます。

6. 議事録(教職員等説明会)

日 時	令和 8 年 6 月 1 8 日 (木) 15 : 55～16 : 20
場 所	平方北小学校職員室
参加人数	1 9 人
意見・要望等	
参 加 者	再編は具体的にはいつ頃になるのでしょうか。
事 務 局	再編が実行されるのは、最短で令和 1 1 年か令和 1 2 年頃になる見込みです。今年度、通学区域審議会での協議を終え、来年度教育委員会にて再編案を決定できた場合はそのくらいになるかと想定しています。再編が決定したとしても、その後に条例改正など議会を通さなければならない部分もあるので、ご想像より時間がかかるとおっしゃっていただければと思います。 再編案が決まった後に、他市の事例では統合準備委員会というものを設けています。1 年、2 年かけて統合先の学校との交流を設けています。学校で使っている備品も違いますし、体育着なども違うので、そういったもののすり合わせにある程度時間がかかるかと思っておりますので、来年からすぐに実施とは我々としても難しいと思っています。
参 加 者	給食調理員です。食数にかかわることなのですごく気になっているのですが、新入生は希望して別の学校へ行くことになるのでしょうか。先を見越して最初からこの学校ではないところへ行くこともあるのでしょうか。
事 務 局	他市の事例では、再編するまでに移行期間を設け、再編前に統合先の学校へ先に行くことも可能としている事例もございます。移行期間を設ける場合は、今後の児童数は現在の見込みよりも減少してしまうのかなと思います。
司 会	その他ご質問はよろしいでしょうか。では、以上で平方北小学校の再編に係る説明会を終わります。ありがとうございました。